

第21回長野工業高等専門学校参与会 議事概要

日 時 令和7年1月29日(水) 10:00～12:00

場 所 長野工業高等専門学校 第一会議室

出席者 (敬称略)

参与：香山瑞恵(会長)、小河原敏男(副会長)、丸山陽一、倉島浩、池田明、渡辺雅義、平林靖久、萱津理佳、金澤彰

本校：江崎尚和(校長)、濱口直樹(副校長(教務主事))、渡辺誠一(副校長(学生主事))、酒井美月(副校長(寮務主事))、藤澤義範(副校長(専攻科長))、楡井雅巳(副校長(総務主事)/第三者評価対応委員会委員長/広報企画室長)、田中秀登(副校長(研究主事)/地域共同テクノセンター長)、鹿又仁郎(副校長(事務部長))、春日貴志(工学科情報エレクトロニクス系長)、堀口勝三(工学科機械ロボティクス系長)、小池博明(工学科リベラルアーツ教員院長)、板屋智之(学生相談室長)、松下英次(教育改善委員会委員長)、中山英俊(入試広報室長)、相馬顕子(男女共同参画室長)、小宮山真美子(国際交流センター長)、百瀬成空(情報エレクトロニクス系准教授)、福井郁夫(総務課長)、中嶋広隆(学生課長)、金井隆英(総務課課長補佐(総務担当))、白木順子(総務課課長補佐(財務担当))、長井俊之(学生課課長補佐)、伊藤奈津奈(総務課総務企画係長)、所優樹(総務課総務企画係員)

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介 (各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ

江崎校長から、本会は、本校の教育研究や学校運営に関する意見を外部有識者から伺い、学校の改革や改善に反映させることを目的としている旨の説明があった。また、本校で現在抱えている課題や早急に対応が必要な問題、高専機構本部からの指示事項について議論し、限られた時間の中で忌憚のない意見を伺いたい旨の挨拶があった。

5. 配付資料確認
6. 議事

香山会長から、この参与会は長野高専の教育研究について検証し、支援や提言を行う重要

な会であると考えているため、忌憚ないご意見等を伺いたいとの挨拶があった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により香山会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。

(1) 議題1「新系設置構想」

楡井副校長：それでは、新系の設置構想について説明いたします。皆様、お手元の資料1をご覧ください。また、ディスプレイやスクリーンも併せてご確認ください。

本校は3年前に改組され、工学科となりました。最初のグラフが示すように、改組前は受験倍率が徐々に低下していましたが、改組後もその傾向は続き、昨年度は1.2倍、今年度は1.1倍とさらに下がっています。この状況を受け、早急な対応が必要と判断し、新しい系の設置を視野に入れ、近隣や全国の高専を訪問し情報を収集してきました。

現在、日本全国で中学生の人口が減少しており、それに伴い入試倍率も低下しています。本校においても定員割れのリスクが高まっているため、近隣の高専を調査し、倍率低下の要因を分析しました。

その一環として、ワーキンググループを組織し、近隣の高専における倍率の変動要因を詳しく調査しています。例えば、長野県全体の人口動向と長野高専の状況を確認したところ、昨年度の志願者倍率は1.2を少し下回る水準でした。現時点では、倍率の低下と特定の要因との間に強い相関は確認されていませんが、わずかな関連性がある可能性が示唆されています。

あと、各県の産業と倍率に何か関係があるのかについても調査しました。その結果、倍率が高い地域はいくつか存在するものの、産業との強い相関は見られませんでした。ただし、多少の関連性がうかがえる部分もあると考えられます。

次に、女子比率との関連を調べました。本校の女子比率は比較的低いものの、同程度の倍率の学校でも女子比率が高い学校があります。こうしたデータを踏まえ、女子比率の向上が本校の課題であると考えています。

特に、女子比率の高い高専を調査したところ、化学・バイオ系の学科を持つ学校が多いことが分かりました。また、建築系やビジネス系も一定の割合を占めていますが、特に材料・バイオ系が女子比率向上に寄与している可能性が高いと考えています。

本校の学生や調査先の意見を集めたところ、女子学生の中には化学系に対する憧れを持つ人が多いことが分かりました。さらに、長野高専技術振興会の会員企業にアンケ

ートを実施し、材料・バイオ系の学生に対する求人ニーズを調査しました。その結果、約7割の企業がこの分野の人材を求めており、採用枠も2割程度確保されていることが確認できました。

コンサルティング会社の意見としては、材料・バイオ系の専門性を考えると、大学院レベルの知識が求められる可能性があるとの指摘がありました。また、県内企業のみでは求人の幅が狭くなるため、県外企業も視野に入れる必要があるという提言を受けました。

新系の設置には化学系の実験室が必要となり、2～3室の設置が求められます。現在、本校には低学年向けの化学実験室がありますが、他の実験室と共有する形での運用が必要と考えています。また、化学系の分析機器やガス配管・水道などの整備も重要な課題として挙げられています。

学生の生活空間と実験室の共用は課題となりますが、他校の事例を参考にしながら整備を進める方針です。しかし、インフラの制約があるため、すぐに十分な環境を整えるのは難しく、工夫しながら進めていく必要があります。

また、高専のモデルコアカリキュラムを踏まえ、化学・生物・バイオ系のカリキュラム整備が求められます。現在、本校では機械系を中心に材料分野をカバーしていますが、バイオ系の教員がいないため、人事計画を立てて新たに採用する必要があります。

調査した高専では、化学・生物系や材料系を純粋に扱う学科と、複合系の学科を設置しているケースがあります。本校としては、化学・材料分野に加え、バイオ分野も取り入れることが適していると考えられます。

新系の設置に向けては、設備面や教員の確保を計画的に進める必要があります。また、授業の形態も工夫し、合同クラスや多人数での授業を活用することが重要となります。直近では教員の確保が難しいため、信州大学にも協力を依頼し、当面の対応を進めていくことも考えられます。

現在、本校の無機材料や環境材料の教員がカバーできる分野を確認しつつ、将来的には有機化学系の教員を増やしていく方針です。

以上、駆け足での説明となりましたが、今後の受験倍率の向上や女子学生の増加を目指し、材料・バイオ系の新系設置を進めてまいります。ご意見をいただければ幸いです。

香山会長：資料の21ページにある「新素材・バイオ系」というのが、現在チャレンジしようとしている分野という理解でよろしいでしょうか。

楡井副校長：はい。

香山会長：新素材という場合、有機系を今後増やしていくということですが、無機材料の専門家の先生方がすでにいらっしゃって、その分野が厚い層になっているのでしょうか。それとも、バイオ系の方がすでに厚いのでしょうか。

楡井副校長：現状、バイオ系に対応できる教員がないという状況です。工業材料系や環境系の教員はおりますが、環境系の中でバイオ系に関連する部分が少し含まれる程度で、十分な体制にはなっておりません。今後、人事計画の中で進めていかざるを得ないと考えております。

香山会長：バイオ系は、女子向けという今回の目的を考えると、特にターゲットになり得る分野かと思えます。女子中学生へのアンケートについては、8ページに書かれているかと思えますが、至急アンケートを実施して方向性を固めたいということですね。地域ニーズの調査はこれから行われるという理解でよろしいでしょうか。

楡井副校長：はい。その通りです。中学生への調査はまだ実施できていませんので、今後、より幅広く情報を集めていく必要があると考えています。

香山会長：日本全国で工学系の人気は低下しており、私たちも危機感を持っています。特に若者の減少に伴い、高校レベルでも生徒の獲得競争が激しくなっており、より選ばれる学校になる必要があります。この点については、参与の皆様とも目的を共有しているかと思えます。

倉島参与：バイオの話が出ましたが、私たちの地域では食品分野、特に発酵食品の産業が活発化しており、技術の伝承や人材不足が課題となっています。バイオという大きな枠組みの中で、発酵技術も含めて人材育成が進められると、産業界にとっても大変ありがたいです。その点について、プログラムにうまく組み込んでいただけると良いのではないかと思います。

小河原参与：女子生徒の増員が目的とのことですが、ここ10年ほどで女子学生の割合はどのように変化しているのでしょうか。以前は2割から2割5分（25%）ほどだったと記憶しているのですが、現在は減少しているのでしょうか。また、新系設置構想について、大まかなスケジュールや具体的な計画があれば教えてください。

江崎校長：女子学生の割合は現在も20%前後で推移しています。年によって多少の増減はありますが、平均すると20%程度です。私は長野高専の前に鈴鹿高専や有明高専にいましたが、そこでは化学・バイオ系の学科がありました。例えば、鈴鹿高専の生物応

用化学科では女子学生が70%~80%、材料工学科では50%ほどでした。

長野高専は設立当初、機械工学科2学科と電気工学科の3学科でスタートし、その後、土木工学科が追加されました。そのため、もともと女子学生が入りにくい学科構成になっています。化学系の学科があれば状況は変わっていたかもしれません。今後、女子学生の入学を増やしていかなければ、定員割れのリスクが高まると考えています。

また、長野高専は3年前に学科の改組を行いました。完成年度を迎えるまでは新たな学科変更が難しい状況です。あと2年で完成年度を迎えるため、その後に動き出すことができると考えています。

池田参与：中学生向けのアンケートや出口側（卒業生や企業向け）のアンケートについてですが、将来必要とされる技術を見据えた調査になっているのでしょうか。現在の延長線上での調査ではなく、10年後や20年後にどのような技術が必要とされるのか、長野県の産業界のニーズに合致した内容になっているか、少し疑問を感じています。その点については、どのようにお考えでしょうか。

楡井副校長：今年から調査を開始したところですので、ご指摘を踏まえて、今後1年ほどしっかり調査し、将来構想を立てていきたいと考えています。

萱津参与：現在、志願者の減少が課題となっています。どの大学も少子化の影響を受けていますが、高専の場合は特に、中学生の段階で進路を決める必要があるという難しさがあります。中学生が進路を決める際、幼さゆえに迷うのか、逆に成熟して早くから決めるのか、その判断は難しいところです。理系か文系を決めるだけでなく、高専に進むとなると工学系を選択することになります。しかし、多くの生徒はまだ明確に決められず、工学系を志望していても、まずは普通高校に進学してから考えたいと思う傾向があります。

私の大学は「グローバルマネジメント学部」のような幅広い分野を扱う学部があり、入学後も進路に迷う学生が多くいます。それを考えると、高専に入学する学生は、ある程度ははっきりとした意思を持っていないと入学を決断できないのではないかと感じます。

女子学生を増やすために新しい分野を設置することは一定の効果があるかもしれませんが、しかし、中学生から見たときに、その学科で何を学ぶのかが明確でなければ、志願者は増えないのではないかと懸念しています。私自身が中学生だったとしたら、「高専」という大枠で捉え、新しい学科ができたからといってすぐに興味を持つとは限らな

いと感じます。

そのため、中学生へのアプローチが重要です。広報活動も大切ですし、現在の「入学時の入り口を一つにして、入学後に系統を分ける」という制度に関しても、理解を深める必要があると思います。昨年、こちらの場に参加した際、「希望する系に進めない可能性はほとんどない」と伺いましたが、そうした情報をもっと積極的に発信することで、中学生や保護者の不安を和らげ、志願者増加につなげることができるのではないかと感じました。

(2) 議題2 「自己点検・評価項目」

楡井副校長：本校では自己点検の項目を定め、昨年度の指摘を踏まえ、四半期ごとに自己点検を実施する形で対応しております。

お手元の資料のうち、資料2、資料3、資料4が自己点検評価の資料になります。資料4は全体像を示したものです。本日はその中から「専攻科の教育活動及び研究活動」について、資料2と資料3を基にお話しし、その後、5年前に卒業した学生および受け入れ企業へのアンケート結果について、資料5で報告いたします。

まず、資料2をご覧ください。「専攻科課程の教育課程」に関する自己点検です。年度初めに点検項目を定め、四半期ごとに点検作業を進めております。昨年度の指摘を受け、点検項目自体の見直しも行いながら進めております。

- 点検項目28：カリキュラムが体系的に構成されているかの確認。専攻科は「電気情報」と「機械・制御・環境都市」の2つに分かれており、今年度、カリキュラムの体系を確認しました。
- 点検項目29：社会の変化に応じた科目の整備状況。適切な科目が配置され、シラバスに教授内容が明記されていることを確認しました。
- 点検項目30：評価方法の周知状況。シラバスへの記載と、講義開始時の教員による説明を通じて、学生の理解を促進しています。
- 点検項目31：シラバスの活用や研究指導が適切に行われているかを確認するため、全科目で授業評価アンケートを実施し、学生の意見を教員にフィードバックして改善を図っています。従来は一部の科目に限られていましたが、今年度から全科目に拡大しました。
- 点検項目32：単位認定はシラバスで周知され、適切に実施されています。

- 点検項目 3 3 : 成績評価について、専攻科では前期に単位取得状況を確認し、後期に計画通り単位認定が進むかを確認しています。昨年度も適切に対応されており、今年度の成績評価や修了評価も今後実施予定です。
- 点検項目 3 4 : 修了認定の状況。単位認定の状況を確認しながら進めています。
- 点検項目 3 5 : ディプロマ・ポリシーに基づく成果を確認するため、学習状況や単位取得を確認しながら進めています。さらに、今年度から卒業特別研究の発表会で英語プレゼンを一部導入し、先日実施しました。
- 点検項目 3 6 : ディプロマ・ポリシーに沿った学習成果の評価として、学生の自己評価や修了生アンケートを実施しています。昨年度の結果では、達成度に応じた評価項目が設定され、学習成果が確認されています。
- 点検項目 3 8 : 進路状況の確認。希望する進路に進んでいるかを評価し、学位取得についても計画的に進めています。

次に、資料 3 「研究活動の状況」についてです。

- 点検項目 4 4 : 研究活動は計画に沿って進められており、外部資金の獲得も重視されており、科研費の採択は今年度 1 4 件、うち基盤Bが 3 件含まれています。これにより「頑張っている」と評価されており、共同研究なども計画の 9 割程度達成しています。今後も外部資金の確保に取り組んでいきます。オープンラボの活動については後ほど報告します。
- 点検項目 4 5 : 研究活動の一環として、地域向けに教員の研究内容を紹介するシーズ集を発行し、産業展などで広報しています。企業とのマッチングを進め、共同研究の促進を図っていますが、さらなる活性化が必要です。今後も広報を強化し、研究活動の発展を目指します。
- 点検項目 4 6 : 研究活動の状況は、研究主事を中心に研究推進委員会が確認し、提案やサポートを行っています。オープンラボもその取り組みの一環であり、後ほど報告予定です。

次に、資料 5 「卒業生・企業アンケートの結果」についてです。

本アンケートは 5 年に一度実施しており、本年度は卒業生 2 5 0 名（本科 2 0 0 名、専攻科 5 0 名）、就職・進学先の企業・大学 2 5 5 機関を対象に行いました。

- 回答率の課題: 企業へのアンケート依頼方法に課題があり、伝達が十分でなかった点を反省。次回は企業の総務部等へ直接依頼する方針です。

- 学生の自己評価:語学力やコミュニケーション能力、プレゼン能力について「やや劣る」との評価が見られました。
- 企業・大学の評価:特に語学力(英語)の不足を指摘されました。前回(5年前)と同様の指摘があり、グローバル化教育の強化が求められています。
- 今後の取り組み:コミュニケーション能力の向上、数学的・物理的思考力の強化を専門教育の中で意識して取り組みます。

以上、自己点検及びアンケート結果の報告でした。よろしくお願いいたします。

香山会長:資料2の自己点検評価の専攻科課程についてですが、高い評価が多い中で、項目34と項目37がそれぞれ「3」と「2」という数値になっています。これらの算出根拠が分からないのですが、どのような理由でこの数値になったのか教えていただけますでしょうか。

楡井副校長:項目34については、修了認定の実施や基準の確認、点検状況が今後の議論の対象となっているためです。現在の状況としては、修了判定前の段階であり、単位取得状況の確認などが途中段階にあるため、評価項目の数値が低くなっています。

香山会長:項目37についても、3月に学位取得となるため、現時点では確定しておらず、年度末には「5」になる予定ということですね。

楡井副校長:はい。最終的には「5」にならなければなりません。

香山会長:資料5の卒業生へのアンケートについてですが、修了生の回収率が49人中8人、卒業生の回収率が200人中42人という結果に少し驚きました。これは既卒者に対して依頼したもので、当該年度の卒業時に行ったわけではないということですか。

楡井副校長:はい。これは令和2年、3年の卒業生を中心に、既に修了した方々をお願いしたものです。前回5年前のアンケートでも回答率は約15%で、低いという指摘を受けていました。何とか回収率を上げたいのですが、なかなか改善が難しい状況です。

香山会長:同窓会と連携しての実施ではなく、高専独自で実施されているのですね。

楡井副校長:はい。現在、同窓会から連絡先情報をいただき、回答が期待できそうな卒業生を選んで連絡を取るという方法で行っています。

平林参与:企業へのアンケートの回収がうまくいかなかった点についてですが、ぜひ企業の関係部署に直接送る形にしてください。現在、企業は人材を求めており、長野高専の卒業生を必要としている企業もあると思います。既に高専の卒業生が働いている企業なら、アンケートを無視することはないでしょう。ただし、卒業生を通じてアンケートを

依頼すると、その人の負担になる可能性があり、企業側もあまり重視しないかもしれません。ですので、企業の窓口を通じてアンケートを実施していただきたいです。

もう一点、資料3についてですが、高専が諏訪工業メッセや佐久メッセなどのイベントでブースを設けているのは良い取り組みだと思います。一方で、経営者協会では定期的に役員会や常任監事会を開催していますので、その場で高専の取り組みをアピールするのも良いのではないのでしょうか。実際、信州大学はそのような場で積極的に発信しています。経営者の中には中学生の子どもを持つ方もいるため、高専への進学を考える機会にもなるかもしれません。ぜひ、アピールの場として活用してください。

楡井副校長：ぜひ、お願いしたいと思いますので、その際はどうぞよろしくお願ひいたします。

(3) 議題3 「本校での取り組み」

楡井副校長：それでは、先ほど少し触れましたが、最近の本校の取り組みについて、資料6、資料7、資料8に基づいてお話しします。よろしくお願ひします。

まず、今年度から始まった「オープンラボ」についてです。オープンラボでは、地元企業からの課題やニーズをいただき、それを本校の研究者や教員とマッチングさせます。そして、学生も参加し、実践の場として教育に活用しています。具体的には、テクノセンターのコーディネーターが地元企業に訪問し、課題やニーズをヒアリングして、それを基に教員とのマッチングを行います。その後、共同研究に繋げていくという形です。

この活動は2年間を計画し、共同研究費として700万円を企業から提供していただいています。また、企業からは職員が派遣され、学生と共に研究に取り組んでいます。

この活動は、校長である江崎の前任高専での実績をもとに提案され、実現したもので、今後も企業や本校、地元金融機関と連携して進めていきます。

今年度は「オープンラボ」として、アピックヤマダさんと山洋電気さんの2件がスタートしました。アピックヤマダさんでは教員が3名、山洋電気さんでは教員が2名、学生も交えて活動を始めています。今後も活動を増やし、さらに充実させていきたいと考えています。

現在、専攻科棟の入り口には、オープンラボの銘板を掲示していますので、ぜひご覧ください。

これらの取り組みを通じて、外部資金の獲得にも繋げていきたいと思いを。

次に、資料7についてです。これは一昨年からスタートした「高速信号伝送評価センター」に関するもので、全国の高専の共同利用設備として本校に設置されています。この設備は高周波の測定などに応用されており、企業にも利用されています。実際に、非破壊評価やCTを使った評価、高速信号の電波暗室などの用途で利用されています。

今年度の上半期には、特にCTや高周波のVNAアナライザーが活発に使用されており、面白いところでは、サツマイモや生ハムの特性を評価するプロジェクトも進行中です。これらの活動もさらに充実させていきたいと考えています。

続いて、資料8です。こちらは一昨年度から始まった「ソーシャルイノベーション・サポートセンター」で、学生の起業家マインドを養成することを目的としています。学生がやりたいことをすぐに実現できる環境を提供し、自由に使えるスペースを整備しています。また、学生が参加するコンテストの支援も行っています。

専攻科棟3階には、リモート環境が整備されたメインスタジオや工房などのスペースがあり、学生は自由に利用できます。これまでには、3Dプリンターを使って玉軸受けの試作を行うなど、さまざまな活動が進められています。

また、起業マインドの醸成やコンテスト支援などを通じて、学生にセミナーや学習の機会を提供しています。

簡単ではありますが、最近の本校の取り組みについてご紹介しました。よろしく願いいたします。

香山会長：オープンラボの取り組みについてですが、素晴らしい活動ですね。まず、2社からの提案を受けて活動が開始されたと理解しました。この活動では、教員が2名以上関わり、学生も参加しているという構図が描かれています。そこで、関わる学生へのインセンティブについてお聞きしたいのですが、何か措置はありますか？単位に関わる活動とは思いますが、個人的な研究者の活動ではなく、企業と関わる共同研究に参加する学生へのエフォートに対する配慮について、どのようにお考えでしょうか？

田中副校長：学生にとっては、自分の将来を考える良い機会になります。自分の専門性を生かし、仕事としてどの分野を選ぶかを考えながら、自分の向き不向きも判断できるチャンスです。この取り組みが学生の将来にどうつながるかが重要だと思います。学生が自分の気持ちと重なる部分があれば、就職を考えても良いですし、逆に無理に関わりを持たせたくないなので、あくまで学生自身の意志を尊重します。オープンという形にこだわ

り、学生にとって社会を知る良い機会になると考えています。また、最前線でどのような困難があるかを学び、スキルを向上させるチャンスにもなると思います。

香山会長：貴重な機会を提供することができるのは素晴らしいですね。さて、共同研究は大学側にとってのメリットだけではなく、企業にもメリットがあると思います。そこで、率直にお聞きしたいのですが、関わった学生に対して、例えばRA経費や謝金、アルバイト代など、エフォートに対する報酬は提供されていないということですか？

田中副校長：はい、現時点ではそのような報酬はありません。

平林参与：少し全体的な話になりますが、実はいろいろな方法があります。例えば、今話に出たような共同の形で進める方法もありますし、信州大学では長野県経営者協会と連携し、約20年にわたり、県内の経営者が講座を持つ仕組みを続けています。年間8名から10名ほどの講師が単位制で講義を行い、聴講生の制度もあります。講義の内容は、社長に限らず、技術系や管理系のトップが担当し、事前にテーマを決めて進めます。学生は受講後、最終的にレポートで学びを確認する形になっています。この制度は毎年継続されており、必要であればこうしたやり方も参考にできるでしょう。

また、私が以前在籍していた会社では、15～16年以上前に人事部長として、高校生向けの技術系プログラムを実施していました。理系の高校生が企業を訪れ、技術者との交流の場を持ちたい、会社見学をしたいと希望するケースがありました。技術関係の内容は機密事項も多いですが、可能な範囲でオープンにし、受け入れを行っていました。現在の企業の受け入れ方針は不明ですが、高校側から申し入れがあれば、受け入れる可能性は十分あると思います。実際に、長野高校や松本深志高校などの進学校から要請があり、理系の1・2年生が企業訪問を行ったこともあります。もし必要であれば、積極的に申し入れをしていただければと思います。

また、先ほどの話にも関連しますが、中学生の段階で工学系の進路を決めるのは難しい問題です。ご存じのとおり、長野県内の工業高校の中には危機的な状況にある学校もあります。例えば、かつて名門と言われた岡谷工業や松本工業高校も含め、独立した工業高校が減少し、総合高校へと統合される流れが進んでいます。

こうした状況を踏まえると、専門性を前面に出しすぎず、より幅広い層の生徒を受け入れながら、徐々に専門性を深めていくような仕組みが重要ではないでしょうか。東京大学の「進学選択」のように、入学後に専門を決めるスタイルには一定の魅力があります。高校でもこの考え方を取り入れ、工学系に関心がある生徒をまず広く受け入れ、そ

の中で専門性を深めていく形が望ましいと思います。工学科が設置されたこと自体は素晴らしいですが、さらに対象を広げてもよいのではないのでしょうか。

さらに、長野県の今後の発展を考えると、工業系と農学系を組み合わせた分野が重要になってくると思います。先ほど県庁の方からも発酵に関する話がありましたが、農学と化学、バイオ技術を融合させるような学びは、今後10年、20年、あるいは30年先の日本にとっても重要になります。特に、安全保障の観点からも「食」の分野は大きな課題であり、農学と工学を組み合わせた技術は今後ますます必要になってくるでしょう。高専においても、こうした分野を取り入れることが重要ではないかと思います。

このように対象を広げていくことで、女性の進学者も増える可能性があります。現状、男女比を見ても女性の方が多いわけですから、いかに女性を工学系に引きつけるかが、学校の存続にも関わってくるのではないのでしょうか。ぜひ、より幅広い視点で検討していただければと思います。

楡井副校長：ぜひ参考にして、今後の取り組みに活かしていきたいと思います。

(4) 議題4 「いじめ対策について」

渡辺副校長：本校が取り組んでいるいじめ防止対策についてお話しします。どの高専でもいじめ対策に取り組んでいますが、外部の方から見た際に本校の取り組みがどう評価されるのか、ご意見をいただきたくて資料を作成しましたので、どうぞご確認ください。

現在、いじめ防止対策には「いじめ防止対策推進法」があり、この法律に基づき、本校では「長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画」を策定しています。この計画は、本校のホームページにも掲載しており、広く周知されています。

基本計画は主に8つの項目で構成されており、今回はその中から「いじめの未然防止」「いじめの早期発見」「いじめに対する対応」についてお話しさせていただきます。

まず、防止策についてですが、いじめ防止等基本計画にPDCAサイクルを組み込み、学校内に「いじめ対策委員会」を設けています。この委員会では、対策の計画を立て、実行に移すための具体的な策を講じています。例えば、アンケート調査などを実施して早期発見に努めています。もし何か問題が発覚した場合は、迅速に対応します。

個別の事案に対しては、2ヶ月に1度開催される「いじめ対策委員会」で情報共有を行い、その後、対応策を確認し実行しています。重大な事案が発生した場合は、国立高等専門学校機構本部にも報告し、アドバイスをもらいながら対応します。

また、計画の進捗については定期的に評価・検証を行い、次回の対策に活かしています。本校は工業系の学校であり、いじめに関する情報が教職員に届きにくい場合があるため、定期的に研修を行い、担当者のスキルアップを図っています。

次に、いじめ防止プログラムについて簡単に説明します。本校では、5月と11月を「いじめ防止月間」として、特にいじめ防止に取り組んでいます。この期間中には、教職員や学生がいじめについて考えるための活動を行っています。

5月には、SNSを使ったトラブルが多いため、1・2年生に対してSNSのトラブルの問題を取り上げ、それがいじめにどうつながるかを考えさせます。上級生については、6月に「いじめ防止に関するワークショップ」を開催し、自分の意見をしっかりと書き表す活動を行いました。

また、保護者向けにはいじめ防止に関するパンフレットを配布し、理解を深めてもらうようにしています。早期発見を目指して、年4回のアンケート調査を実施しており、6月、8月、12月、2月に実施されています。

後期のいじめ防止月間には、研修会を行うなどして、教職員にもいじめ防止の重要性を再確認してもらいます。また、行事のタイミングで講話を実施し、学生と直接触れ合う機会も設けています。

10月には文化祭があり、保護者と面談を行う際に資料を配布し、相談窓口の案内もしています。

未然防止の取り組みとして、課外活動や学生同士の交流の場を設けていますが、最近では積極的に参加しない学生も増えており、すべての学生に行き渡っているかどうか課題となっています。また、寮生が370人ほど在籍しているため、親元を離れて暮らす学生たちのいじめの存在には、なかなか気づきにくい部分もあります。

そのため、学生自らがいじめ問題を真剣に考える機会を増やす必要がありますが、現在のところ、用意されたプログラムに参加する形にとどまっている状況です。

早期発見と対処のため、教職員には「早期発見・事案対処マニュアル」を周知し、いじめが発覚した場合には24時間以内に報告し、適切な助言を受ける体制を整えています。アンケートを通じて早期発見が可能となり、情報共有のために定期的なミーティングや、グループウェアを使った情報提供を行っています。

これにより、迅速に対応できている事例もいくつかありますが、今後の課題としては、すべての学年で共通のいじめ防止対策プログラムを考え、実施していくことが挙げら

れます。そのためには、学級担任の先生たちへの研修を行う必要があります、少しハードルが高い部分もありますが、引き続き取り組んでいきたいと思っています。以上、いじめ防止対策についてのご報告でした。

金澤参与：今の説明の中で何件か事例があったということでしたが、今年度、または今年に入ってから、いじめに関する事例は何件把握されているのか教えていただけますか。また、後援会も少し関わって、一緒に取り組む形で情報共有や連携を深めることが重要だと感じますので、その点についてもご検討いただければと思います。

板屋室長：いじめ対策委員会で議論された件数はおそらく数件程度だと思います。その中で、いじめ案件として高専機構に報告したのは、現在2件となっています。

渡辺副校長：後援会との連携についてのご意見、今まであまり考えていなかったもので、意見交換させていただき、今後の協力方法について検討していきたいと思っています。

香山会長：学校だけでなく、保護者の方々も一緒に見守り、正しい対応ができるようになることが重要ですね。

香山会長：いじめの定義に関して、今回の対象は「学生対学生」に限っているという理解でよろしいでしょうか。2ページ目のいじめの定義に、学生同士の出来事であると書かれていたのですが、その点について確認させていただきますか？

渡辺副校長：はい、その通りです。基本的には学生同士の問題として扱っています。ただし、学生生活の中で、例えば学生と教職員との間で発生するパワーハラスメントやアカデミックハラスメントなどについては、いじめという言葉を使うのではなく、別の形で対応しています。これらについては、ハラスメント防止のための対策を定めており、それに基づいて運用しています。

香山会長：いじめとは直接関係ないかもしれませんが、高専では途中で進路を変更、キャリアチェンジをする学生もいらっしゃるかと思います。その中で、もし不幸なことが原因となって進路変更がある場合、どのくらいの割合でそういったケースが発生しているのでしょうか。また、先ほど2件の事例が報告されたとのことでしたが、それらは解決し、安心して学生生活を送れているか、卒業まで支障なく進めているのかについても教えていただけますか。

渡辺副校長：具体的な退学理由はわかりにくいのが実情です。ただし、現状としては、退学の理由で最も多いのは成績不振です。また、進路変更については、例えば3年生終了後に大学を受験することができ、昨年度には国立大学に推薦で合格した学生もいます。前

向きな進路変更の事例もあります。いじめを理由に退学した学生については把握しておりません。

(5) 議題5 「質疑応答・意見交換」

香山会長：それでは、ご用意いただいた4件の議題についてご説明いただきました。ここからは、全体的な質疑応答や意見交換の時間とさせていただきます。今回の議題に限らず、皆様にご意見をいただければと思います。

渡辺参与：普段なかなか聞けないお話を伺うことができ、大変勉強になりました。長野高専ではオープンラボやソーシャルイノベーション・サポート・センターなど、積極的にさまざまな取り組みをされていると伺いました。しかし、これらの活動が十分に周知されていないのではないかと感じます。先ほど長野県経営者協会の平林さんもおっしゃっていましたが、こうした取り組みをもっと広報に活用すれば、志願者の増加にもつながるのではないのでしょうか。

当社にもさまざまな組織や部署があり、デジタル分野にも力を入れています。取り組みが成功に結びつかないケースも多いです。評価書の作成も重要ですが、最終的なゴールは成果を上げることにあります。企業でも同様に、成果につながる取り組みを行うことが重要です。そのためには、ここにいらっしゃる幹部の皆様が、実現可能な指針を示し、具体的な形にしていくことが必要だと思います。

その点で、長野高専の皆様がさまざまなアクションをされていることは素晴らしいと感じました。今後は広報にも力を入れ、「こんな素晴らしいことをしている」ということをより積極的に発信していくべきだと思います。

江崎校長：私自身も、長野高専はこれまで入試広報などの活動にあまり積極的ではなかったのではないかと感じています。これまで3つの高専を経験してきましたが、他と比べてもやや控えめな印象があります。しかし、遠慮する必要はないと考えています。

そこで、私が着任後すぐに入試広報室を新設し、現在、広報活動を進めています。ただ、広報の内容をさらに検討しなければ、志願者増加にはなかなかつながらないというジレンマもあります。今回のご意見を参考にしながら、長野高専の取り組みを積極的に外部へ発信していくことを重視していきたいと思います。

香山会長：入試広報室では具体的にどのような活動をされていますか？

中山室長：現在、倍率の回復を目指し、特に中学生をターゲットに県内各地で説明会を開催

するなど、昨年度以上に力を入れて取り組んでいます。また、後援会の方々にもご協力いただき、地域のネットワークを活用しながら中学生へのアプローチを進めています。

私自身、広報室長としての1年目ですが、地域によって長野高専に対する認知度に差があると感じています。近隣の学校では高専の存在は認識されているものの、その魅力を十分に伝えきれていないと感じます。一方、中信や南信の地域では、高専の存在自体を知らない方が多いのが現状です。そのため、ニュースの発信や地域での活動を通じて、まずは認知を広げることが重要だと考えています。現在進行形ではありますが、引き続き活動を進めていきます。

香山会長：信越放送様として、ご協力いただけることはありますでしょうか？

渡辺参与：はい。どんどん情報をください。長野県経営者協会のほうにも情報をどんどん提供してください。

平林参与：私の出身は松本ですが、中信や南信の地域では、長野高専の認知度が低くなっていると感じます。設立当初は「国立の工業高校ができる」と大きな話題になり、トップ校へ進学するよりも高専へ進むべきだという話もあったほどです。しかし、私が中学に入る頃にはそうした話題はほとんど聞かれなくなりました。おそらく、当時と比べて広報の力が弱まったのではないのでしょうか。

例えば、エプソンにも長野高専出身の役員クラスの技術者が以前はいましたが、最近はその話をあまり聞かなくなりました。それでも、高専出身の社員は毎年入社していますし、社内でOB会を開催すればかなりの人数が集まるのではないかと思います。こうしたネットワークを活用するのも一つの方法かもしれません。本日、代表取締役の方々も集まる機会があるので、長野高専をもっと大切にすべきだという話をしておきます。

香山会長：地域の人材育成は、長野県立大学なども含め、皆で協力して進めていくべきことだと思います。せっかくの機会ですので、最後に皆様から一言ずつお願いできますでしょうか？

丸山参与：義務教育を担当しています。以前も申し上げましたが、義務教育の中でも理系科目、特に理科や科学に興味を持たせることが重要だと考えています。その一環として、「長野スーパーサイエンスプロジェクト」を実施しています。信州大学や高専の協力を得て、学校外で展開しているこのプロジェクトは大変人気があり、申込みができないといった苦情の電話もあるほどです。つまり、理系に興味を持っている子どもは非常に多

いのです。

そのため、彼らの関心をどう育てていくかが課題となります。将来の就職先を考える以前に、「新素材やバイオ技術を活用して地球環境問題を解決したい」といった高い志を持っている子どもたちが多くいます。SDGsについて学ぶ機会も増えており、そうした夢をサポートする取り組みが求められています。「就職に有利」といった視点よりも、より大きなビジョンを提示することが重要だと思います。

徳島の「神山まるごと高専」は、私も設立当初から注目していました。校長には経済産業省の五十棲氏が就任し、さらに素晴らしい学校へと発展していくことでしょう。全国的に注目されるこのような新しい取り組みが求められています。ただ単に「女子学生を増やそう」という動きではなく、「この道に進めばこんな未来が待っている」というビジョンを明確に示し、広報していくことが大切だと考えます。

私自身、市立長野高校を担当しているため、こうした課題に真剣に向き合っていきたいと思います。

倉島参与：理系、特に技術系の人材は産業界にとって必要不可欠ですが、私たちもまた企業をサポートする立場として、技術職の人材が不足していると感じています。工業技術総合センターには技術者が集まっていますが、さらに多くの人材が求められています。特に化学や食品系、さらには電動化の進展に伴い電気系の人材も重要です。EV（電気自動車）は一時的に勢いが落ちているとはいえ、電動化の流れは止まりません。教育界全体で理系人材の底上げを図り、産業界とともに成長できるような体制を作りたいと考えています。

池田参与：私どもミマキエンジニアリングでも、高専卒の方は60人以上、エプソンさんには100人以上の方が入社されていると思います。しかし、昔に比べると高専生の存在感が薄れてきました。

私自身、「もう少し技術的に頑張ろう」と考え、技術者を集めようとしたのですが、全く人が集まりませんでした。そこで、長野高専さんに相談したところ、何人かが入社し、技術的なリーダーシップを取れるようになった、という経緯があります。

私はたまたま長野高専の電気工学科の2期生で、在学中に「電子計算機」の授業を少し受けました。その後、沖電気の子会社に入社し、当時はミニコンやオフコンに関わる仕事をしていました。あるとき、「この分野をやっていた」と話したところ、「じゃあ、お前が行ってこい」と任せられ、自然な流れで担当することになりました。

当時、設計はドラフターを使って行われていましたが、「将来的にはパソコン上で設計し、出力する機械が必要になる」と言われ、「じゃあ、それをやってみようか」と取り組んだのがプロッターでした。現在は、看板のカッティングやインクジェット技術へと発展しています。こうした流れを経て、技術はつながり、未来を見据えながら学ぶことが重要だと実感しています。

例えば、自動車業界はこれから大きく変化します。センサーが20個も搭載され、これまで5万円程度だった電子部品が30倍以上になるという話もあります。しかし、それらを動かすには結局ソフトウェアが不可欠です。バイオ技術も重要ですが、ソフトウェアはさらに重要であり、システムの機能性を高めるために欠かせません。

女性技術者の採用も積極的に進めています。バイオ分野も大切ですが、直近ではソフトウェア技術がより求められると考えています。

長野高専の教授の皆さんが研究開発を進め、それに長野県の産業がついていく。そして、その流れの中に学生が入っていく。そんな未来の姿を描き、実現していければと願っています。

渡辺参与：今朝、テレビ番組で駒ヶ根工業高校のロボット部が全国優勝・準優勝したと報道されていました。家内も見えて「駒ヶ根工業ってすごいね」と感心していました。

こうした話題が広まることが非常に重要です。長野高専も素晴らしい活動を行っているのですから、もっと積極的にアピールすべきです。もったいないと思います。

平林参与：文部科学省には長野県出身の関係者がいます。うまく活用し、改革を進めてください。

萱津参与：私は県立大学の関係者として、さまざまな取り組みを学ばせていただく機会になったと感じています。

高専では非常勤講師を務めています。先ほども申し上げたとおり、高専には16歳から20歳の学生が在籍しています。高校では「生徒」といった呼び方をしますが、高専では「学生」となり、その違いを改めて考えさせられました。

また、先ほど先生方がご説明された「いじめ」という言葉についても印象に残りました。大学では「いじめ」という言葉をあまり聞きません。もちろん、ハラスメント対策は進めています。が、「いじめ」というキーワードが高専ならではのものなのか、それとも大学でも対応が必要なのか、改めて考えさせられました。大学では、学生同士のトラブルにあまり介入しませんが、高専では担任の先生方がクラス単位で学生指導をしつ

かり行っていることを知り、大学としても見習うべき点が多いと感じました。

さらに、工学系だけでなく、現在、私たちの大学でも志願者の減少が深刻な課題となっています。そのため、学部の改組やカリキュラムの変更を検討している最中です。そうした背景から、会の最後に話題に上がった点についても非常に参考になりました。

小河原参与：今日のお話を伺い、改めてショックを受けたのは、やはり志願者数の減少についてです。この状況には非常に危機感を覚えています。

先ほど「高専のメリット」という話がありましたが、私自身が高専を選んだ最大の理由は「学費の安さ」です。ただ、近年、高等教育の無償化が進められようとしています。もしこれが実現すれば、高専の魅力が相対的に薄れ、志願者数がさらに減少するのではないかと危惧しています。

現在の志願倍率が1倍程度という話がありましたが、ほぼ全員が入学できる状況になれば、学力層がばらつき、特に下位層の学生にとっては厳しい環境になってしまうのではないかと懸念しています。私自身、学生時代は決して優秀ではなかったため、先生方にご負担をかけたと自覚しています。もし学力が追いつかず途中で脱落してしまう学生が増えるのであれば、入学前の段階で一定の基準を設けることも必要かもしれません。

もちろん、新しい学科やカリキュラムの導入によって志願者を増やしていく取り組みには大いに期待しています。しかし、学生のため、そして先生方のためにも、入学基準についても慎重に検討していただくべきではないかと思います。

金澤参与：後援会では、学生の部活動や学生生活を支援する活動を行っています。また、県内には13の支部があり、それぞれの支部では親御さん同士の交流も行っています。

しかし、コロナ禍の影響で、しばらくの間、交流会を開くことができませんでした。現在は徐々に再開され、支部内での交流会や親御さん同士の意見交換ができるようになってきています。

高専生はあまり親に学校での様子を話さないことが多いですが、こうした交流を通じて、親同士のつながりを深めることができればと思っています。今後も後援会として、こうした活動を大切にしながら取り組んでいきますので、どうぞよろしく願いいたします。

香山会長：信州大学工学部では、高専生向けに3年次編入の枠を設けており、特に女子学生向けに20名の枠を設置しています。今年で2年目になりますが、定員40名のうち2

0名を高専女子枠としているのは、かなり大きな取り組みではないでしょうか。現在も絶賛募集中ですので、ぜひ来年も多くの学生を送り出していただければと思います。

また、女子学生に限らず、工学全体が地域として発展していくことが重要です。特に長野県の北部は製造業が盛んな地域でもあります。先ほど県の方からもお話がありましたが、地域のニーズに応え、地域を活性化させる形で連携していければと考えています。さらに、学びの面では、社会情勢やグローバルな視点を持つことも忘れてはならないと感じています。

7. 閉会

江崎校長から閉会として、本校の教育機関としての充実を図るため、参与の皆様からいただいた貴重な意見を今後の学校運営に活かしていきたい旨の挨拶があった。また、地域に根差した高等教育機関としてさらなる発展を目指し、引き続き支援と協力をお願いする旨の発言があった。

第 21 回長野工業高等専門学校参与会

《次 第》

日 時 令和 7 年 1 月 2 9 日 (水) 10:00~12:00

会 場 長野工業高等専門学校 第 1 会議室

次 第

1. 開会
2. 会長・副会長紹介
3. 自己紹介 (各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ
5. 配付資料確認
6. 議事
 - 1) 新系設置構想
 - 2) 自己点検・評価項目
 - 3) 本校での取り組み
 - 4) いじめ対策について
 - 5) 質疑応答・意見交換
7. 閉会

第 21 回長野工業高等専門学校参与会 配付資料

- 長野工業高等専門学校参与会設置要項
- 第 21 回長野工業高等専門学校参与会出席者名簿／座席表

資料No. 1 新系設置構想

資料No. 2 自己点検・評価（専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果）

資料No. 3 自己点検・評価（研究活動の状況）

資料No. 4 自己点検・評価（全体）

資料No. 5 卒業生・企業アンケート

資料No. 6 長野高専オープンラボ

資料No. 7 高速信号伝送評価センター

資料No. 8 ソーシャルイノベーション・サポートセンター

資料No. 9 いじめ防止対策への取り組み

冊子等

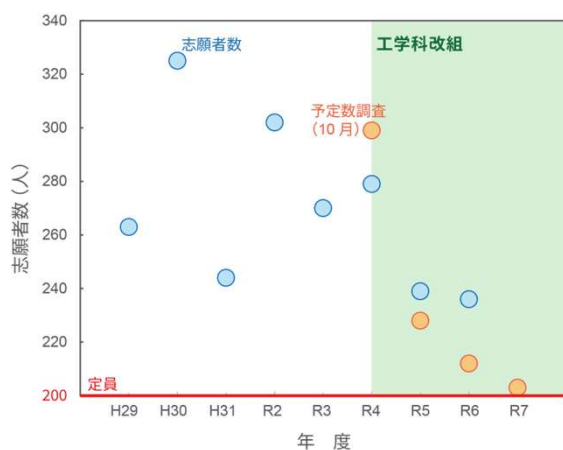
- 学校要覧（2024年版）
- GUIDE BOOK 2025
- 学園だより（192号）

新系設置構想

参与会資料

1

入学生確保における 長野高専の現状と課題



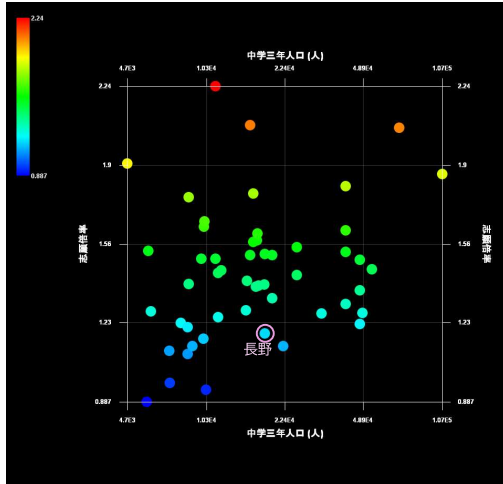
- 工学科改組後にさらなる下落
- 令和7年度は志願予定数調査で定員に迫る

- ◆ 中学三年生人口の減少
- ◆ 入学後に希望する系へ進めない可能性を心配する声も

状況の打開に一刻の猶予も許されない状況

2

志願倍率へつながるファクターの検証



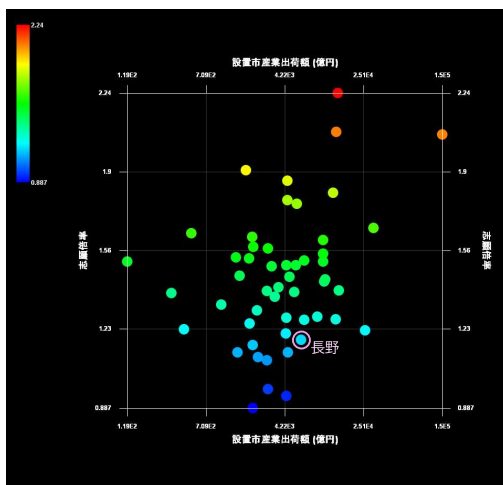
※横軸はボリュームゾーンの団子化を軽減するため対数プロット

中学三年生人口との関連

わずかに正の相関が見られる
(相関係数0.254)

3

志願倍率へつながるファクターの検証



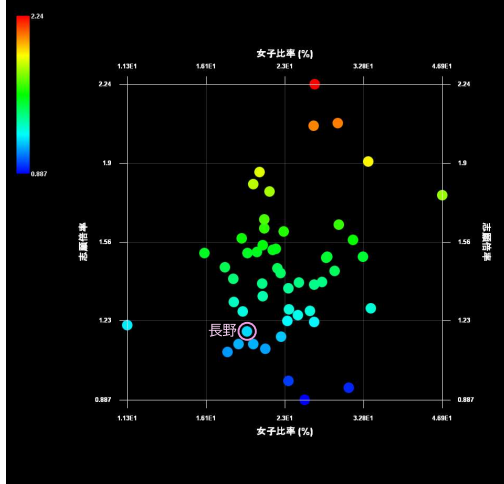
※横軸はボリュームゾーンの団子化を軽減するため対数プロット

設置市町村の産業出荷額との
関連

弱いながらも調べた中では
もっとも正の相関が窺える
(相関係数0.362)。
長野市はまずまずの順位に位
置しながらも、同格の高専と
比してもっとも志願倍率が低
い。

4

志願倍率へつながるファクターの検証



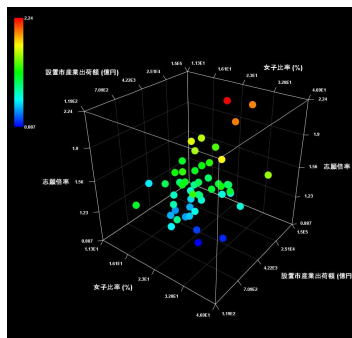
※横軸はボリュームゾーンの団子化を軽減するため対数プロット

女子比率との関連

女子比率が高いながらも定員割れしている学校もあるが、志願倍率を上伸ばすチャンスは女子比率の高い側に窺える（相関係数0.223）。

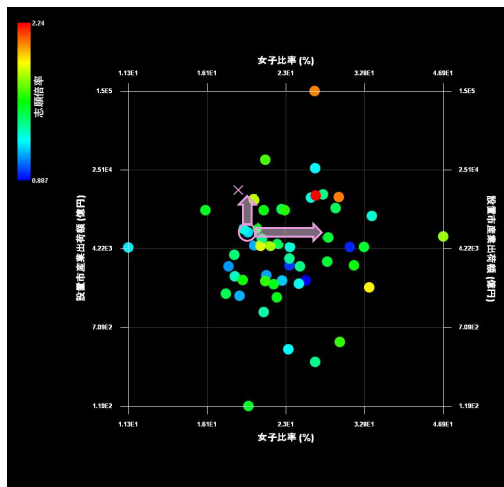
5

志願倍率へつながるファクターの検証



女子比率(x)ー産業出荷額(y)ー志願倍率(z)プロットの3D-viewとtop-view。カラーグラデーションの中間色（緑色）が志願倍率1.56倍。

これらの要素の中で本校が上昇に乗せられるファクターは「女子の比率」しかない



※x、y軸ともボリュームゾーンの団子化を軽減するため対数プロット

6

女子の比率が高い学科(系, コース)

- **物質・化学・バイオ系** 32校(キャンパス)で36学科(系, コース)設置。女子比率平均45%。学科(系, コース)名の例:応用化学/環境生命/生物応用/材料システム/物質化学/化学・バイオ/マテリアル・バイオ/マテリアル環境/化学・生物・環境
- **建築系** 19校(キャンパス)で19学科(系・コース)設置。女子比率平均43%。学科(系, コース)名の例:建設システム/建築デザイン/建築社会デザイン/建設環境/環境都市・建築デザイン/土木・建築/環境・建築
- ※ **ビジネス系** 3校(キャンパス)で3学科設置。女子比率平均75%。
学科名:ビジネスコミュニケーション/経営情報/国際ビジネス

7

新分野, 女子が多い系に対するニーズ(入口側)

- 白衣を着て実験できる学科にあこがれる。(4年生女子, 5年生女子)
- 食品, 化粧品会社へ就職できる学科があれば入りたかった。(4年生女子)
- 建築を本気で勉強したかったら長野高専ではなく長野工業高校に進んだ方が良いという話が伝わっている。(5年生女子)
- 女子が多い学科・系があったら断然その系を希望していた。女子の少なさで進学候補から外した友人もいる。(4年生女子)
- 制服がなかったら高専を選んでいなかったかも。(米子高専女子)

等々。建築へのニーズも聞かれる中, 化学系へのあこがれが圧倒的に多く聞かれる(※至急アンケートをして固めたいところ)。また女の子として学校生活を楽しめる要素もニーズとして強い。

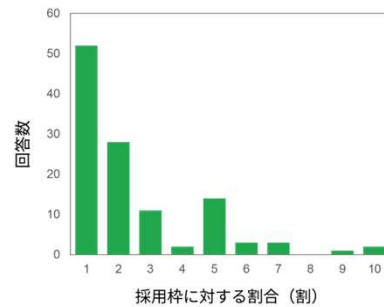
8

新分野の系に対するニーズ(出口側)

技術振興会会員企業へアンケートを実施
(166社回答)

物質・材料・化学系の専門知識を持つ本科
卒業生の採用ニーズ・・・有リ:70%

- ➡ 専門性の深さのイメージ・・・本科卒業
レベル71.5%, 専攻科卒業レベル25.9%,
大学院卒業レベル2.6%
- ➡ 採用枠に対する採用の割合・・・平均
2.5割(内訳右図)



9

新分野の系に対するニーズ(出口側)

県内企業がイメージしている業務内容(回答抜粋)

環境負荷物質調査 / 鋳造の溶湯管理, 鋳造条件の研究, 鋳造品の試作 / アスコンや生コン等の建設材料の配合 / 食品品質管理 / 車載部品関係のコア開発における磁性体材料, 成型部品の材料選定 / 半導体製造用モールド金型の開発設計 / 金属加工の生産技術 / 材料開発や品質管理(試験・分析) / レンズプレス, レンズ加工, 洗浄, メッキ等の化学知識 / 工事監督支援業務, 積算技術業務 / プラスチック成形加工 / 金型設計, 金型加工, 生産技術 / 化学物質管理責任者 / ITエンジニア / ユーザー様への素材材料等の提案 / 導電ペースト製造のための研究開発 / コンクリートの調査(物理探査)の分析 / 超音波振動子の材料研究 / 新素材対応 / コンクリート二次製品もしくは生コン関連 / ナノインプリント等を用いた樹脂の性能評価 / 環境分析(土壌, 水質等の分析) / 食品製造設備の開発部門 / 理化学分析機器の営業販売部門・サービスサポート部門 / タンパク質合成部門 / 施工管理職 / 品質保証とISO管理 / 化学物質責任者 / 公害防止管理者等

10

新分野の系に対するニーズ(出口側)

県内企業を支援しているコンサルティング会社からのコメント

- 長野県内に該当職種の企業は極めて少なく、学生の選択の幅が狭くなることは必定。
- 物質・材料・化学系で欲しいのは専門性を持った大学院卒で、それ以外の分野において技術者の汎用性が高いのでは。



視点を県外・全国区へも広げる

八戸高専・2019～2023年度本科就職先(県外)

(化学・材料)旭化成(6)／大日精化工業(4)／三洋化成工業(3)／星光PMC(2)／DIC(2)／東洋インキSCHD／富士フィルム和光純薬工業／日本色材工業研究所／花王／日東電工／NAT／関東化学／日本触媒／石福金属興業／日本ゼオン／東レ／日本たばこ／三菱ガス／東芝DMS／三菱マテリアル／フードテクノエンジニアリング／浜松ホトニクス (エネルギー) ENEOS(2)／出光興産(2)／東亜石油／日本原子力発電／東京ガス (食品) サントリーHD(2)／雪印メグミルク／森永乳業／キリンビバレッジ／マルハニチロ (製薬・分析) 第一三共プロファーマ(4)／東京都下水道サービス(3)／三井化学分析センター(2)／第一三共バイオテック(2)／アステラス／中外製薬／シオノギファーマ／第一三共ケミカルファーマ

11

必要となる準備

45人規模の学生実験室



八戸高専 講義棟に1室、マテリアル・バイオコース棟に3室あり

- ドラフトチャンバー
- 収納棚付実験机
- 薬品収納棚
- 水道・ガス配管
- 定温乾燥機

バイオの実験をするなら

- クリーンベンチ
- 試料冷凍庫
- 培養器 など

一般科棟の化学実験室も借りながら、最初は1室の作成から(2室で運用) 例：低学年の化学実験を集中講義化して時間割を空ける(米子高専)

12

必要となる準備



富山高専本郷キャンパス

オープンキャンパスへの対応も想定したレイアウト（演示用の実験機とプロジェクタ・引き出し型スクリーンを設置）

13

必要となる準備



長野高専一般科棟2階 化学実験室

（一案）

一般科棟の化学実験室も借りながら、まずは新系棟に1室を作成し、合計2室で運用

低学年の化学実験（実験室を使う单元のみ）を集中講義化して時間割を空けるという実例も紹介いただいた（米子高専）

14

必要となる準備



八戸高専

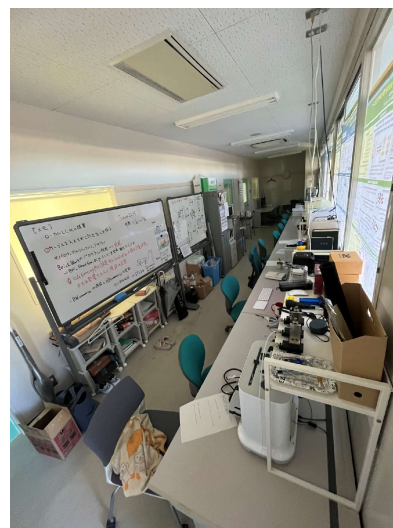
卒研スペース

- ドラフトチャンバー
- 収納棚付実験机
- 薬品収納棚
- 水道・ガス配管
- 定温乾燥機

はできる限り標準で備え、あとは各教員が必要に応じて揃える



八戸高専 写真左側に卒研生スペース



富山高専本郷キャンパス 3研究室合同スペース

学生の居住区は実験スペースと切り離すのが原則
→部屋数の関係から実際はなかなか難しい

必要となる準備



八戸高専 テクノセンターを共有分析装置の設置拠点としている

分析機器, 実験設備 (青色は
現有)

- クロマトグラフ (液体, 気体)
- NMR (核磁気共鳴) 装置
- 試料冷凍庫, 恒温庫
- クリーンベンチ
- 分光器・FTIR
- 電子顕微鏡, XRD, など
- 純水製造装置

→ 研究室で設備を囲わず, 共有体制を構築

→ 暫くは特別経費, マスタープランなどの競争的資金は新系構築に注力

17

必要となる準備 カリキュラム

モデルコアカリキュラム(MCC)

※青色は【V-E 化学・生物系分野】と共通している

【V-B 材料系分野】 1材料物性(金属の構造/原子の構造と周期律/固体の構造/量子力学の基礎/半導体) 2材料組織(格子欠陥/物質の状態と平衡条件/一成分系状態図/二成分系状態図/変形と強度/拡散/回復と再結晶/相変態) 3物理化学(第一法則/第二法則/相平衡と化学平衡) 4力学(応力とひずみ/引張・圧縮・せん断応力/曲げ/ねじり) 5環境(公害・環境汚染/地球環境問題/エネルギー資源問題/廃棄物処理技術) 6金属材料(鉄と鋼/炭素鋼の熱処理/合金鋼/鋳鉄/銅及び合金/アルミニウム及び合金/チタン及び合金/金属材料各論) 7無機材料(原子の構造/原子の電子配列と周期律/化学結合と分子の構造/結晶構造と格子/酸化還元反応/無機物質/無機材料各論/反応熱/反応速度論) 8有機材料(有機化学の定義/有機化合物の構造と結合/炭化水素/立体化学/官能基による分類と各化合物の特性, 反応/高分子化学序論/高分子合成/高分子材料各論) 9設計・加工(製図/鋳造/溶接/塑性加工/)

18

必要となる準備 カリキュラム

モデルコアカリキュラム(MCC)

※青色は【V-B 材料系分野】と共通している

【V-E 化学・生物系分野】 1有機化学(有機化学の定義/有機化合物の構造と結合/立体化学/有機化合物の分類と各化合物の特性, 反応/高分子化学序論/高分子合成) 2無機化学(原子の電子配列と周期律/原子核構造と放射能/化学結合と分子の構造/固体の構造/錯体の構造/無機物質) 3分析化学(定性分析/化学平衡/化学分析/光分析法/その他の分析法/機器分析) 4物理化学(気体の性質/混合物の性質/熱力学/化学平衡/反応速度/量子化学) 5化学工学(物質収支/熱の移動/液体と気体の流れ/物質の分離と精製)

ここからバイオ分野。現状で対応できる教員がいない。 6生物化学(糖/脂質/タンパク質/核酸と遺伝情報の発現/酵素/生体エネルギーと代謝) 7生物工学(細胞と生体の恒常性/微生物の増殖と培養/微生物や動植物細胞等の利用/遺伝子工学)

19

必要となる準備 カリキュラム

各高専のMCC対応の情勢 (36学科/コース)

- 化学・生物系 27
- 材料系 鈴鹿高専材料工学科, 新居浜高専環境材料工学科の2つのみ。ただし両校とも化学・生物系の別学科をもつ。
- 複合融合 ※2系で1学科分のMCCを満たすよう構成。カリキュラムを占めている順に列記。3つ目以上の系はMCC充足条件外。
 - 化学・生物系+材料系 沖縄高専生物資源工学科
 - 化学・生物系+電気・電子系 仙台高専総合工学科マテリアル環境コース/有明高専創造工学科応用化学コース/同・環境生命コース
 - 材料系+機械系 久留米高専材料システム工学科
 - 化学・生物系+機械系(+材料系+電気・電子系) 久留米高専生物応用化学科
 - 化学・生物系+材料系(+機械系+電気・電子系) 高知高専ソーシャルデザイン工学科新素材・生命コース

20

どの方向へ、どこまで目指すのか

ハードルの高さは

バイオ > 化学・高分子材料 > 無機材料(金属, 半導体, セラミック, 炭素, 等)

MCCも, 材料系と生物・化学系の「複合融合系」とすれば, バイオ系単元(V-Eの6, 7)を回避できる。

しかしながら, **バイオの導入は重要**

- 高専黎明期は「工業化学科」を設置している高専が多かった。しかし女子学生が集まらず, 平成初期にバイオ分野を取り込んだ改組により, 女子学生が一挙に増えた, という過去を持っている(八戸高専, 米子高専, 鈴鹿高専, など)。
- 「ニーズに向き合わず, 自分たちの都合に合わせておこなう改革は絶対に失敗する」(富山高専 入試広報センター長 河合孝恵教授からの警告)。

本校がカバーしている無機材料研究を, これからの産業界の動向に合わせて進化させていくとともに, 女子学生が望むバイオ分野も組み入れた系が, 目指す形のひとつであろうと提案する。 新系名の一案:「**新素材・バイオ系**」。

21

必要となる準備 教員体制の構築(一案)

- バイオ系, 化学系の授業を担当できる教員を1名, できれば2名を採用
- リベラルアーツ教育院に所属の化学教員から1名を新系へ移動
- 低学年化学の授業を複数クラス合同化(最大5クラス同時。米子高専で実施)
※長野高専は他校よりも多人数授業をする教室の数に恵まれている。
- それでも担当を充てられない授業では非常勤講師での充足も検討
- 残りはひとまず本校現所属の無機材料・環境材料研究の教員で固める
- 低学年の基礎的化学の科目は, 見ながら教えられるレベルの教科書を選定し, 現所属の化学系外の教員も担当する

- このような体制で初期をしのぎ, 徐々に有機化学系の教員の割合を増やしていく

22

令和6年度参加会

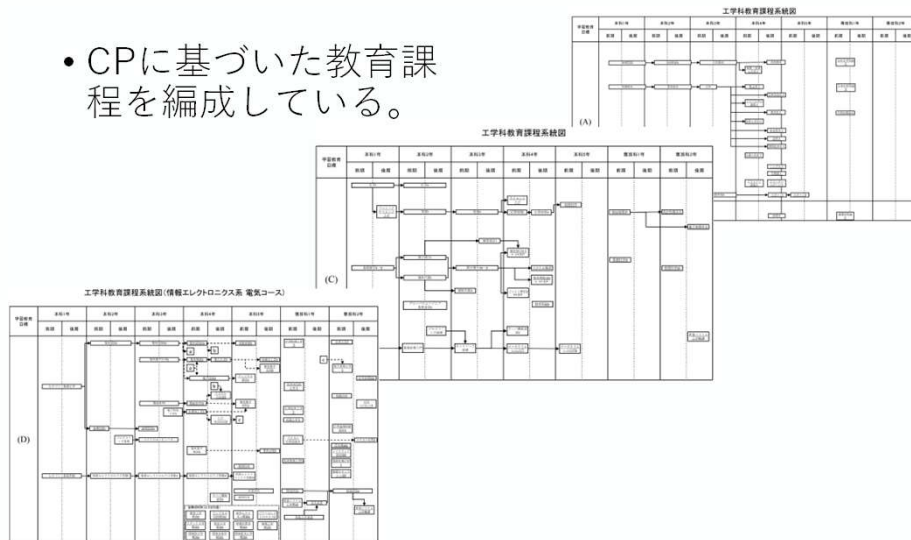
令和7年1月29日

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 28
カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。
- 点検事項
 - (1) CPに基づき教育課程を編成しているか。
 - (2) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 28： 達成率 100%、評価 5

- CPに基づいた教育課程を編成している。



出典：工学科教育課程系統図（一部抜粋）

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

• 点検項目 29

教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。

• 点検事項

- (1) 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。
- (2) 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。
- (3) 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。
- (4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 29： 達成率 100%、評価 5

- 適切な科目が配置されている。
- 教授内容はシラバスに適切に記載されている。
- 点検は専攻科運営委員会において行われている。

令和6年度 第5回専攻科運営委員会

日 時 令和6年3月24日(金) 18:15～
会 場 専攻科第2講義室

議題	
1. 博士学士の関係について	資料No.1
2. 専攻科博士学芸・教育到達目標の関係について	資料No.2
3. 学芸・教育到達目標と認定科目の関係について	資料No.3
4. 令和6年度学外実習について	資料No.4
5. その他	
報告事項	
1. 専攻科学芸部の組織状況について	資料No.5
2. 懇話会について	資料No.6
3. 履修計画書の確認について(資料なし)	
4. 履修計画の合格者について(資料なし) AP専攻は名、AE専攻は名合格 → 5月31日入学願の提出された。	
5. その他	

資料委員会 4月2日(金) 18:15～専攻科第2講義室

出典：令和6年第5回専攻科運営委員会

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 30
教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。
- 点検事項
 - (1) 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。
 - (2) 修了認定の基準を周知しているか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 30 : 達成率 100%、評価 5

- 成績評価等について Webシラバスにて周知している。
- 修了認定についてはガイダンス、学士の説明会などで周知している。

ルーブリック	評価項目	評価基準	達成状況
評価項目 30	Webシラバスに「成績評価の方法」に関する記載があるか	Webシラバスに「成績評価の方法」に関する記載がある	達成
評価項目 30	Webシラバスに「修了認定の方法」に関する記載があるか	Webシラバスに「修了認定の方法」に関する記載がある	達成

出典：Webシラバス（抜粋）

85年度 学位授与申請書内 P90

10 電気電子工学	工学
<p>電気電子工学は、通信、制御など人間社会に必要システムのために、電子回路、電気電子機器を利用した装置を設計し、開発する学問領域である。本学では、情報・制御・システム工学の分野で最新の知識に基づき、電気電子工学の発展に貢献する人材を育成する。そのために、本学では、電気電子工学の基礎となる「電気回路論」を必修とし、その発展に際しては、電気電子工学の応用分野である「電気電子システム工学」を必修とし、その発展に際しては、電気電子工学の応用分野である「電気電子システム工学」を必修とし、その発展に際しては、電気電子工学の応用分野である「電気電子システム工学」を必修とする。</p>	
<p>【本学】電気電子工学の基礎となる科目（4単位以上）</p> <p>【本学】電気電子工学の応用分野である科目（4単位以上）</p> <p>【本学】電気電子工学の応用分野である科目（4単位以上）</p> <p>【本学】電気電子工学の応用分野である科目（4単位以上）</p> <p>【本学】電気電子工学の応用分野である科目（4単位以上）</p>	

出典：学士取得説明会資料

5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 31
 - カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。
- 点検事項
 - (1) CPに沿って、シラバスを適切に作成しているか。
 - (2) シラバスを活用しているか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 3 1 : 達成率 80%、評価 4

- CPに沿った教育課程が編成されているが、研究指導に適切に活用されているかについては評価方法検討している。
- 講義系科目についてはアンケートにてシラバスの活用を調査している。

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	特別研究II
科目基礎情報				
科目番号	0232	科目区分	専門1の部	
授業形態	講義・実習	履修の単位と単位数	学修単位:2	
開講科目	最先端システム教育	対象学年	専2	
開講部	工学	開講期間	4	
教材書・資料				
担当教員	伊藤 貴敏			

これほど専門1上内用を特別研究IIで活用できることで、2つの達成となる。後者達成の共通および後述「プレゼンテーション」を行うことにより達成される。また、特別研究IIの活用により、学生間の協働的学習が促進される。

出典：特別研究IIシラバス（抜粋）

C(2) 積極的に授業の内容を理解しようと思いましたか

得点	①強くそう思う	②そう思う	③普通	④あまり思わない	⑤思わない
4.2	1. 20.0%	4. 80.0%	0. 0.0%	0. 0.0%	0. 0.0%

C(3) 授業の自分に必要かどうかを考えたことができましたか

得点	①強くそう思う	②そう思う	③普通	④あまり思わない	⑤思わない
4.2	1. 20.0%	4. 80.0%	0. 0.0%	0. 0.0%	0. 0.0%

C(4) この授業の学習を進めるにあたって、シラバスを参考にしましたか

得点	①強くそう思う	②そう思う	③普通	④あまり思わない	⑤思わない
3.6	0. 0.0%	3. 60.0%	2. 40.0%	0. 0.0%	0. 0.0%

C(5) シラバスにある成績評価方法を理解していますか

得点	①強くそう思う	②そう思う	③普通	④あまり思わない	⑤思わない
3.6	0. 0.0%	4. 80.0%	0. 0.0%	1. 20.0%	0. 0.0%

出典：授業評価アンケート（抜粋）

5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 3 2
成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。
- 点検事項
 - (1) 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。
 - (2) 修了認定の基準を周知しているか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 3 2 : 達成率 100、評価 5

- 成績評価等について Webシラバスにて周知している。
- 修了認定についてはガイダンス、学士の説明会などで周知している。

ルーブリック	授業計画・授業シラバスの記載	授業計画・授業シラバスの記載	評価シラバスの記載
情報リテラシーに関する理解	情報リテラシーの重要性を理解し、デジタルリテラシーの重要性を理解できる	デジタルリテラシーの重要性を理解し、デジタルリテラシーの重要性を理解できる	デジタルリテラシーの重要性について理解できる
公開情報リテラシーに関する理解	公開情報リテラシーの重要性を理解し、デジタルリテラシーの重要性を理解できる	公開情報リテラシーの重要性を理解し、デジタルリテラシーの重要性を理解できる	公開情報リテラシーの重要性について理解できる
共有情報リテラシーに関する理解	共有情報リテラシーの重要性を理解し、デジタルリテラシーの重要性を理解できる	共有情報リテラシーの重要性を理解し、デジタルリテラシーの重要性を理解できる	共有情報リテラシーの重要性について理解できる
学術的リテラシーに関する理解	学術的リテラシーの重要性を理解し、デジタルリテラシーの重要性を理解できる	学術的リテラシーの重要性を理解し、デジタルリテラシーの重要性を理解できる	学術的リテラシーの重要性について理解できる

出典：Webシラバス（抜粋）

(4) 履修に関する注意事項

- 1年生は余裕をみて2年間で64単位以上となる計画を立ててください。また、1年前期に認めらるような計画を立ててください。無計画な計画により、特別研究の進捗が遅れ、2年生の修士前期に研究の見通しがつかなくなるおそれがあります。
- 2年生は修了要件の単位を満たせるか確認をお願いします。
- TOEIC など外部資格による英語特許・Bの単位認定を希望する学生は、原則として履修開始前に単位認定の申請をしてください。履修開始前に申請できない学生は、必ず授業に出席して履修を進めてください。
- 履修を取りやめる場合には、必ず学生課で履修取り消しの手続きを行ってください。手続きせずに履修を取りやめると「不可」の記録が残ります（GPAを計算する際に不利になります）。

17

出典：専攻科ガイダンス資料（抜粋）

5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 3 3
成績評価は適切に行われているか。
- 点検事項
 - (1) 成績評価を適切に行っているか。
 - (2) 成績評価方法を確認しているか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 3 3 : 達成率 1 0 0 %、評価 5

- 授業改善システム（エビデンスのチェック）を実施し、教員へのフィードバックを行った。
- 前期エビデンスの収集を実施した。



出典：エビデンス収集メール

出典：エビデンスチェックシート

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 3 4
修了認定が適切に行われているか。
- 点検事項
 - (1) 修了認定を適切に行っているか。
 - (2) 修了認定基準を確認しているか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目34： 達成率 60%、評価 3

- 執行会議・教員会議において、全学生の単位修得について確認し、進級・卒業判定が行われている。
- 上記会議において、認定基準を確認している。

会議後回収

氏名 _____

令和6年度 専攻科修了判定資料(案)

令和6年2月18日 第12回教員会議 配布資料No. 1

登録番号	学籍番号	氏名	専攻	本科	専攻科修了判定	学位授与機構学位修得	「産業以て工学」学位修得	備考
1			「生産機械システム工学科」					
2			「生産機械システム工学科」					
3			「生産機械システム工学科」					
4			「生産機械システム工学科」					
5			「生産機械システム工学科」					
6			「生産機械システム工学科」					
7			「生産機械システム工学科」					
8			「生産機械システム工学科」					
9			「生産機械システム工学科」					
10			「生産機械システム工学科」					
11			「生産機械システム工学科」					
12			「生産機械システム工学科」					
13			「生産機械システム工学科」					
14			「生産機械システム工学科」					
1			「生産機械システム工学科」					
2			「生産機械システム工学科」					
3			「生産機械システム工学科」					
4			「生産機械システム工学科」					
5			「生産機械システム工学科」					
6			「生産機械システム工学科」					
7			「生産機械システム工学科」					
8			「生産機械システム工学科」					

出典：第12回教員会議資料

5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目35
ディプロマ・ポリシー（DP）に沿った学習・教育の成果が認められるか。
- 点検事項
 - (1) 学業成績からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。
 - (2) グローバル化への対応成果が認められるか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 35 : 達成率 80%、評価 4

- 各学生の単位修得状況から学習の成果を確認している。
- グローバル化への対応として英語プレゼンを実施する。

出典：第12回教員会議資料

専攻科 特別研究日 英語プレゼン要項
2024.09.27 専攻科運営委員会

今年度の専攻科特別研究日発表会 (R7.1.23) は本科の卒業研究発表会と合同で行うことから、学生の英語でのスピーチ時間を設けることとした。

1. 発表時間
英語スピーチ 5分、日本語発表 10~12分、合計 15分の持ち時間(質疑 5分とする一人当たりの持ち時間は20分とする)。

2. 事前準備

- ① 英語での研究概要：A4版1ページを用意すること
・フォーマットは、IEEEのA4版 Word ファイルを利用
(<https://www.ieee.org/conferences/publishing/templates.html>)
・英語科の先生のチェックは行わず指導教員が責任を持って確認すること。
- ② 発表用の英語スライド3~5枚程度
- ③ 英語での発表用スピーチ原稿 (任意)

出典：英語プレゼン要項

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 36
修了時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。
- 点検事項
 - (1) 修了時のアンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。
 - (2) 修了生アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。
 - (3) 企業アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。
 - (4) 点検事項の確認・検討をしているか。

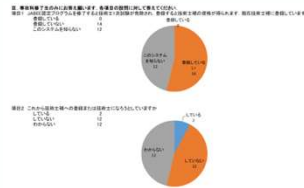
点検項目 36 : 達成率 80%、評価 4

- 卒業時の学習・教育目標の到達度自己評価を行い、成果を確認している。
- 修了生へのアンケート調査

ループシートの学習・教育目標の達成度評価結果表 学生数 100名

学習・教育目標	達成率 (%)	評価 (1-5)	備考
A 卒業時に「専門分野の基礎知識を習得し、実践力をつけること」	9.1	81.8	9.1
B 卒業時に「専門分野の応用知識を習得し、実践力をつけること」	40.9	50.0	9.1
C 卒業時に「専門分野の応用知識を習得し、実践力をつけること」	31.8	59.1	9.1
D 卒業時に「専門分野の応用知識を習得し、実践力をつけること」	50.0	45.5	4.5
E 卒業時に「専門分野の応用知識を習得し、実践力をつけること」	18.2	77.3	4.5
F 卒業時に「専門分野の応用知識を習得し、実践力をつけること」	42.9	47.6	9.5
G 卒業時に「専門分野の応用知識を習得し、実践力をつけること」	50.0	40.9	9.1

出典：令和5年度専攻科修了生アンケート



出典：修了生アンケート集計結果（抜粋）

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 37
修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。
- 点検事項
 - 修了時の学士の取得状況から学習・教育の成果が認められるか。
 - 修了後の進路状況から学習・教育の成果が認められるか。
 - 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 37： 達成率 20%、評価 2

- 学位の取得状況については、3月。
- 進路状況から成果を確認している。

令和6年度 全国中等教育審議会（学修）部会報告書（令和6年10月20日現在）									
項目	達成率	評価	備考	達成率	評価	備考	達成率	評価	備考
1	20%	2							
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37	20%	2							
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									

出典：進路状況（令和6年10月20日現在）

令和6年度参与会

令和7年1月29日

1

7.研究活動の状況

点検項目44.

研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

点検事項

1. 研究活動に関する基本方針が定められているか。
2. 研究推進委員会が設置されているか。
3. 研究倫理委員会が設置されているか。
4. 点検事項を再検討しているか。

2

点検項目44：達成率100%、評価5

研究活動に関する基本方針が定められており、研究推進委員会及び、研究倫理委員会が設置され、支援体制をおこなっている。

■研究活動方針

「本校の研究活動に関する基本方針」校長裁定より抜粋

本校における研究活動は、教員によって本校創立以来継続され、教育の質を保証する上での重要な手段となっている。あわせて、重要な知的情報の発生源でもあり、また、研究活動を通して地域に貢献することへの期待が大きい。そこで、上記のような社会的背景あるいは本校研究活動の活性化の状態を受けて、研究の主たる目的を以下のように明確化するものとする。

- (1) 地域と連携し、かつ地域と密着した研究活動を行う。
- (2) 産学官金の共同研究を推進する。
- (3) 研究活動を本校の教育の向上に反映させる。
- (4) 国際的、および学際的な研究を推進する。
- (5) 社会の安寧と人類の幸福、平和に資する研究を推進する。

■研究活動の点検

研究推進委員会にて、議論・確認をおこなっている。

外部資金科研費獲得目標と状況を把握し、対策としてオープンラボを設置。

研究活動と地域連携を加速する目的で「長野高専オープンラボ」（企業から持ち込まれた課題を解決するための研究室研究連携）を設置しました。

（2024年10月1日から開始、開所式10月29日）

外部資金科研費獲得目標と状況

■目標設定

「5/15に開催された第1回研究推進・産学連携本部会議」にて設定

1) 科研費獲得目標 全種目平均17%以上。全種目での採択数330件以上。（各高専6.5件以上）
基盤B以上の新たな採択件数15件以上。（各高専1件以上）

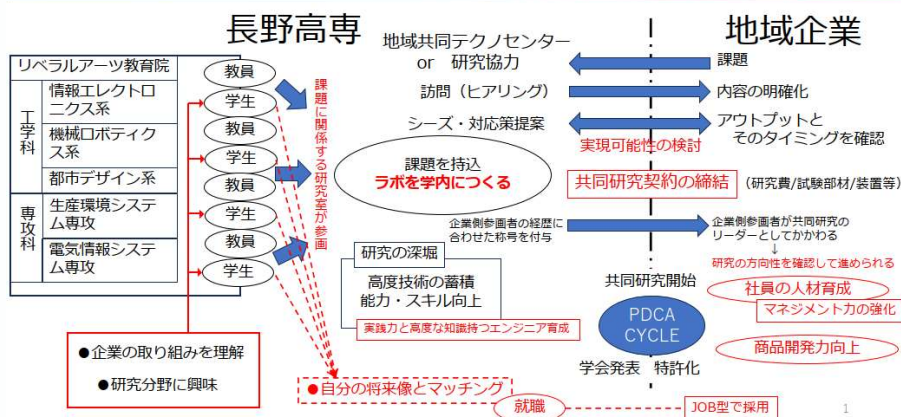
2) 外部資金獲得目標 高専機構全体で2.5億円増加（各高専500万円増加）

■状況（科研費採択数14件（基盤B：3件含む）200%達成外部資金：69,478千円89.9%達成）
科研費及び外部資金合計の獲得状況としては、合算では517万円の増加

■外部資金受入状況													
名称	令和元年度 (2019年度)		令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)		
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	
共同研究	18	14,040	23	18,827	15	13,325	16	19,585	32	25,979	15	25,656	
委託研究	1	614	5	2,775	5	3,127	6	4,091	5	3,440	6	4,260	
受託事業・補助金他	2	650	5	2,900	13	16,797	5	3,104	5	3,332	4	2,501	
寄附金(長野高専基金を含む)	58	49,721	133	43,511	134	24,521	131	43,322	252	39,514	113	37,061	
合計	79	65,025	166	68,013	167	57,770	158	70,102	294	72,265	138	69,478	
■科学研究費補助金交付決定状況													
研究種目	令和元年度 (2019年度)		令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)		
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	
挑戦的研究(萌芽)	1	624	2	1040	0	0	0	0	0	0	1	780	
基盤研究(A)	0	0	0	0	1	1,300	0	0	0	0	0	0	
基盤研究(B)	4	1,278	3	988	2	585	4	1,365	2	195	3	13,260	
基盤研究(C)	5	12,968	7	17,485	7	17,268	10	20,696	8	15,444	10	19,851	
若手研究	2	8,450	1	2,730	1	4,810	2	8,970	3	10,292	0	0	
奨励研究	2	990	2	830	0	0	0	0	0	0	0	0	
研究活動スタート支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
学術図書	0	0	0	0	0	0	1	1,800	0	0	0	0	
厚生労働科学研究費補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	14	24,310	15	23,073	11	23,963	17	32,831	13	25,931	14	33,891	

※2024年11月末まで

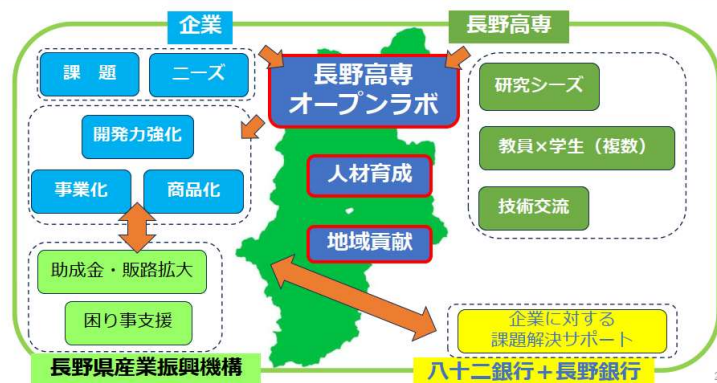
長野高専オープンラボ



企業から持ち込まれた課題について関連分野を研究する教員（2名以上）や学生が共同研究に取り組み、研究活動の活性化と学生の実践力を高める。
 ・共同研究費700万円/企業拠出、期間2年間（希望により延長可）

長野高専オープンラボ

[産]企業×[学]長野高専×[金]八十二銀行+長野銀行×[公]長野県産業振興機構



長野高専オープンラボは、進捗のステージに応じた様々な支援体制が受けられる枠組みの中で活動しています。

長野高専オープンラボ

アピックヤマダ 未来技術研究室



スタートチーム
富岡研究室、姜研究室、田中研究室

山洋電気 パワエレ未来研究室



スタートチーム
中島研究室、田中研究室

相談窓口：地域共同テクノセンター特命教授
(オープンラボ推進担当) 浅沼 和志
e-mail : asacoordi@nagano-nct.ac.jp
TEL : 026-295-7106

7.研究活動の状況

点検項目45.

研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。

点検事項

1. 研究業績一覧を発行し、研究状況の確認を行っているか。
2. 学生による学会発表件数、学生が関与する共同研究の実施状況などを確認しているか。
3. 点検事項を再検討しているか。

点検項目45：達成率80%、評価4

教育研究報告（旧紀要）、シーズ集を発行することで、研究成果の公開をおこなっている。地域連携を促進するため、産業展などでの配布をおこなう技術相談や共同研究へ繋げている。

■ 研究業績一覧を発行

- ・ 教育研究報告（旧紀要）、シーズ集の発行を実施している。
（シーズ集は、全教員を対象として実施）
- ・ 産業展示会での配布
配布した産業展示会：しんきんビジネスフェア、佐久メッセ、上田産業展、長野産業展
諏訪圏工業メッセ、など
- ・ 創業支援センター会議、地域雇用促進会議などでも配布

■ 共同研究申請

- ・ 研究推進委員会にて、都度、確認と課題がないか確認をしている。

■ 点検事項

- ・ 研究推進委員会にて状況確認を行うと同時に、第2ブロック研究推進会議や、研究推進担当者会議などの内容を展開を検討中。

7. 研究活動の状況

点検項目46.

研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。

点検事項

1. 研究推進委員会にて研究活動推進に関する事項を検討しているか。
2. 点検事項を再検討しているか。

点検項目46：達成率80%、評価5

研究推進委員会により、研究活動の状況把握をおこなうと共に課題や支援内容の検討を行っている。更に、第2ブロック研究推進会議、研究推進者担当責任者会議からの情報収集をおこない、展開をしている。

研究プロジェクトの申請、科研費申請、研究力強化プログラムの対象者などについて、研究推進委員会で状況把握をおこない、実施方法を議論し進めている。

資料4 自己点検・評価 (全体)

令和6年度 自己点検・評価表

第21回参与会 R7.1.29

承認日: 令和6年12月26日

確認欄

平均 文章

大項目	小項目	番号	点検項目	担当	点検事項	掲載資料	文章 現状	数値		文章		平均		R5年度 外部の意見
								達成率%	自己評価	改善点	小項目評価	大項目評価	文章	
1. 教育の内部質保証	自己点検評価	1	自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されており、改善を測る指標になっているか。また、自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	総務主事 (教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の事項は改善を測る指標になっているか。 点検・評価の数値基準を定めているか。 点検・評価を四半期ごとに実施しているか。 四半期ごとに点検・評価手法を再検討しているか。 	<p>学校ホームページ: 評価</p> <p>R6年度第2回運営会議議事概要: 報告事項6</p> <p>第1期自己点検依頼メール(5/30校内メール)</p> <p>第3回執行会議議事概要</p> <p>第6回執行会議議事概要</p> <p>第9回執行会議議事概要</p>	<p>R5年度自己点検評価表はホームページに公開</p> <p>R6年度自己点検評価項目を運営会議にて確認</p> <p>第1期 6/21 第3回執行会議にて自己点検状況を確認</p> <p>第2期 9/26 第6回執行会議にて自己点検状況を確認</p> <p>第3期12/26 第9回執行会議にて自己点検状況を確認</p>	75	4				<p>前年の実績に対して、今年のこの評価の項目が、どうアップしているかとか、ダウンしているかとか、何ができているか、何がまだできていないか、この辺がもう少し分かりやすくなると思います。</p> <p>それと、評価制度に対するスタンスです。項目のこれやりましたというのは実行にすぎない。実行したことによって学生の支援にどのようにつながっているのかとか、どのような効果が出たのかとか、学生からどういった反応があったのかという評価の進捗といいますが、このようなことを念頭に置いてやられることが大事かと思います。</p>	
		2	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が、教育の質の改善・向上に繋がっているか。	総務主事	<ol style="list-style-type: none"> 学校構成員の意見聴取の規則を定めているか。 意見検討の仕組みが定められているか。 実施の効果について検討しているか。 点検・評価手法を再検討しているか。 	<p>長野工業高等専門学校校長面談実施要項</p> <p>長野工業高等専門学校職員面談実施に係る取扱いについて</p> <p>参与会設置要項</p> <p>R6年度校長面談日程調整依頼メール(5/1校内メール)</p> <p>事務部面談等進行中</p>	<p>校長による教員面談実施(5/13-6/4)</p> <p>参与会実施予定(1/29)</p> <p>改善につながっているかの評価手続きが不明瞭</p>	50	3					
	3つのポリシー	3	進学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の入りに関する方針(アドミッション・ポリシー)が定められており、社会の状況等の変化に応じて見直されているか。	教務主事 専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> DPを定めているか。 CPを定めているか。 APを定めているか。 3ポリシーの見直しの必要性について検討しているか。 	<p>学校ホームページ</p> <p>R6第2回教務委員会議事概要</p> <p>第3回執行会議議事概要</p> <p>第8回執行会議議事概要</p>	<p>3ポリシーについて、見直しの必要性を含めて確認し、文言等の修正案を執行会議で確認した。</p> <p>第3回執行会議において3ポリシーの修正を実施した。</p> <p>本科CPについてさらに見直しの必要があり、教務委員会において検討のうえ、CPの修正を含む3ポリシーの見直しを行った(第8回執行会議承認)。</p>	100	5					
2. 組織及び教員・教育支援者	学校組織	4	教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているか。	事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 定期的な各種委員会が開催されているか。 運営体制が機能しているか適時点検・確認しているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 組織図 内部組織規則 校務分掌一覧 執行会議・運営会議資料 令和5年度教育改善報告書 	<ol style="list-style-type: none"> 前年度末の執行会議・運営会議において、次年度の学校運営体制の見直しを行った。 毎月の執行会議・運営会議で各種会議・委員会からの報告がなされ、運営体制が機能していることを確認している。また、年度途中であっても、執行会議において必要であれば運営体制を見直しを行う体制としている。 教育改善委員会において、各種委員会の活動状況の点検を年間通じて行っており、必要に応じて次年度への改善点等の提言を行っている。 	75	4					
	教員等の配置	5	進学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。	教務主事 専攻科長 事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 一般科目担当教員を適切に配置しているか。 専門科目担当教員を適切に配置しているか。 教育支援者を適切に配置しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	<p>授業時間割(編成資料)</p> <p>R6第2回教務委員会議事概要</p>	<p>各教員の専門とする領域を考慮して一般科目および専門科目の担当者として配置している。</p> <p>実験・実習科目を中心に授業支援者として技術職員を配置している。</p> <p>点検項目は教務委員会で確認している。</p>	100	5					
	教員の評価	6	教員の採用や昇任に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育研究活動に対して、定期的な評価が行われているか。	校長 教務主事 専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> 教員の採用や昇任に関する基準があるか。 採用・昇任基準を適切に運用しているか。 教員の教育研究活動を定期的に評価しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	<p>長野工業高等専門学校教員昇任の取扱い</p> <p>R6第2回教務委員会議事概要</p> <p>長野工業高等専門学校教員の教育研究活動の評価に関する要項</p>	<p>昇任の基準が定められている</p> <p>教員評価手続き規定(長野工業高等専門学校教員の教育研究活動の評価に関する要項)を8/7に制定した。</p> <p>点検項目は教務委員会で確認している。</p>	75	4					
	FD活動	7	FD・SD活動が実施され、教育活動の改善等に結びついているか。	総務主事 (教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> FD研修会を3回実施しているか。 実施FD研修会の効果を検討しているか。 点検事項を再検討しているか。 	<p>学校ホームページ: 情報公開</p>	<p>R5年度教育改善報告書の結果から状況把握</p> <p>FD研修会を9月30日に実施予定</p>	25	2					
学習環境	学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	8	学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 定期的な施設の管理状況を点検し、良好な状態で維持保全しているか。 安全衛生委員会による月1回の職場巡視を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会議事要旨 キャンパスマネジメント委員会議事概要 施設の管理状況: 点検・検査記録等 	<ol style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会メンバーが毎月職場巡視(4/19, 5/16, 6/17, 7/18, 8/26, 9/17, 10/16, 11/14, 12/17)を行い、職場の安全衛生を点検・確認し、同委員会が必要に応じて改善を図っている。 施設の維持管理については、施設管理者による日常的な点検に加え、契約による定期点検や法定点検等を実施している。 資産の有効活用を図るために、例年、居室等の稼働状況の把握を目的とした施設利用状況調査を6月に行った。12月には6月の調査で稼働率が低かった部屋について再調査を行った。調査結果は情報共有し、稼働率が低い居室等は有効活用に向けた検討を行う。 安全安心な職場環境・教育研究環境を目指すため、全校舎3階以上の居室等に引違い窓の開口制限を実施した。屋外非常階段進入防止扉を設置した。 	75	4					
		9	学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	教務主事 (情報教育センター長) 総務主事 (教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> 学生のニーズ調査を実施しているか。 セキュリティ研修を実施しているか。 ICT環境の保守・点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 	<p>学校ホームページ: 情報公開</p>	<ol style="list-style-type: none"> 学生ニーズをR5年度教育改善報告書の結果から状況把握 非常勤講師を含む全教職員に対してセキュリティ研修実施した。 ICT環境の保守・点検を定期的に実施している。 点検事項を定期的に実施している。 	100	5					
		10	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究に必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されるよう取り組みが行われているか。	総務主事 (図書館長)	<ol style="list-style-type: none"> 教職員・学生のニーズ調査を実施しているか。 蔵書の点検を実施しているか。 図書の活用状況の点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 	<p>学校ホームページ: 情報公開</p> <p>図書希望調査メール(6/5)</p> <p>1. 教職員「学生用図書の推薦について」(4/12教職員へのオールメール)、図書希望調査メール「リクエスト図書募集」(6/5学生へのオールメール)、教職員「関川文庫の推薦図書について」(8/2教職員へのオールメール)。</p> <p>2. 令和5年度完了済み。年1回実施のため、令和6年度においては未着手。</p> <p>3. 4. 5. 6. 7月の図書資料等貸出月計表(6月は作成中)。</p> <p>4. 図書館会議議事録。</p>	<p>学生ニーズをR5年度教育改善報告書の結果から状況把握。</p> <p>1. 教職員・学生への図書希望調査ともに実施中。</p> <p>雑誌・新聞の利用調査実施済み(10月~11月)。</p> <p>2. 根拠資料を、館長・係長・係員で回覧し、活用の現状を把握している。</p> <p>4. 検討済み。</p>	75	4	2. 令和6年度においても実施中で、3月完了を予定している。				
	11	新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。	教務主事 専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> 新入生ガイダンスを実施しているか。 留学生ガイダンスを実施しているか。 編入生ガイダンスを実施しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	<p>新入生の年度当初の日程</p> <p>入学式資料</p> <p>R6第2回教務委員会議事概要</p>	<p>新入生については入学式当日および翌日に実施</p> <p>留学生・編入学性については入学式当日にガイダンスを実施</p> <p>点検項目は教務委員会で確認している</p>	100	5						
12	学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	教務主事 専攻科長 学生相談室長 総務主事(教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> 学生の学習活動に関して相談できる体制を整えているか。 相談・助言等を行う体制が機能しているか。 相談対応など、状況確認がなされているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	<p>学校ホームページ: 情報公開</p> <p>R6第2回教務委員会議事概要</p> <p>第4回運営会議議事概要</p>	<p>R5年度教育改善報告書の結果から状況把握</p> <p>毎月の運営会議において進路支援室、学生相談室からの状況報告が行われている</p> <p>点検項目は教務委員会で確認している</p>	50	3							

3. 学習環境及び学生支援	学生支援	13	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。	教務主事 専攻科長 国際交流センター長 学生相談室長	1. 特別な支援が必要となる新入生の情報を共有しているか。 2. 特別な支援が必要となる留学生の情報を共有しているか。 3. 必要な支援や配慮事項を検討しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	保健調査票(入学時提出資料) R6第2回教務委員会議事概要	新入生について配慮が必要な情報は関係教職員間で共有している。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5		この学習環境と学生支援の分野では、毎年、異なる手法やアプローチを取りながらも学生のニーズ調査やアンケートなどの項目が十分に実施されていないことがあるように思われます。こうした学習環境や学生支援は、受け身の学生側からどのように評価されているのかを把握することも重要かと思えます。難しい面もありますが、学生側からの視点を取り入れることで、例えばガイダンスの実施状況だけでなく、その内容の理解や有益性に関する評価にもつなげることができると思います。
		14	学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。	学生主事 学生相談室長	1. 学生の生活や経済面に係る相談・助言等を行う体制が機能しているか。 2. 学生や保護者に対して各種奨学制度について周知する体制を整えているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	学級担任業務ガイド(第5版) 学生便覧(令和6年度版) 相談室からのメッセージ(2024年度版) 長野高専における個別支援 学生相談室報告 第3回学生支援委員会報告(授業料免除利用状況、奨学金実績) 第1回学校いじめ対策委員会議事次第	1. 本科生に対しては学級担任が、専攻科生に対しては専攻長が主に相談・助言等を行っている。また、メンタル面など専門性の高い相談事項については学生相談室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携して支援を行っている。いじめ対策については、学生相談室で定期的に状況を把握するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催して情報を共有して、チームで対応している。なお、令和5年度末に合理的配慮による学生への個別支援について手順および相談様式を整備して、令和6年度から実施している。 2. 学生や保護者に対して学生課学生係よりメールやホームページで各種奨学金の案内を行っている。また、ホームページに掲載している旨を後援会支部会(須高、上小、大北)で説明している。 3. 第4回学生支援委員会点検予定(生活面と経済的支援に関する点検項目の分離を予定)。	80	4		
		15	進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。	教務主事 学生主事 (進路支援室長) 専攻科長	1. キャリア教育に関する各種セミナーを実施しているか。 2. 進路に関する相談・助言等を行う体制が機能しているか。 3. インターンシップが適切に行われているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	第1回進路支援室会議資料No.5「令和6年度進路支援室イベント開催予定(案)」 進路支援室Letter(2024年4月版) 第1回進路支援室会議資料No.3「キャリアコーディネーター 進路(進学・就職)相談」 実務訓練企業説明会実施要項 R6第2回教務委員会議事概要 R6第7回教務委員会議事概要	1. 各種セミナーの実施は8月以降実施予定。 2. 学生主事、専攻科長、専攻長、系長、学級担任、就職担当教員、キャリアコーディネーターで構成する進路支援室が進路に関する相談・助言を行っている。 3. 本科生の実務訓練は教務委員会と4学年会が中心となり、専攻科生の学外実習は専攻科運営委員会が中心となって実施している。4年生のインターンシップ事業を効果的に進めるため実施時期を変更して5/30に企業説明会を開催し、10/30に報告会を開催した。 4. 点検事項1～2については第2回進路支援室会議で点検予定。点検項目	80	4		
		16	課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。	学生主事	1. 課外活動の指導教員を配置して、課外活動を支援しているか。 2. 教員または課外活動指導員用の指導マニュアルに従い、課外活動が安全に実施できているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	部・同好会指導教員一覧(2024年度版) 部・同好会活動の指導に関するガイドライン(2024年度版) 長野高専課外活動指導員マニュアル(2024年度版) 学生の病気・ケガに対する対応報告書	1. 部・同好会に指導教員を配置して、課外活動を支援している。また、平日の放課後と休日の午前中に課外活動指導員を配置して、教員の業務負担軽減を図っている。 2. 教員用「部・同好会活動の指導に関するガイドライン」、課外活動指導員用「長野高専課外活動指導員マニュアル」に従い、引率時や練習時でケガや体調不良となった学生が出た場合に医療機関を受診させるなど対応できている。 3. 第4回学生支援委員会点検予定。	80	4		
		17	学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	寮務主事	1. 満足した生活の場を提供しているか。 2. 勉学の場を提供しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	寮食堂喫食率調査・寮生活調査アンケート 寮生teamの作成と運用状況 学習コアタイム 学習数確認結果 寮生会実施 勉強会 参加者数確認結果	1年1回の寮生活調査アンケート(12月実施)と、寮食堂における摂食率調査と満足度調査 1.寮生teamを作成し、学生への連絡を迅速化し、確認精度を上げた。 2.学習コアタイムにおける4月・6月、9月・11月の巡視結果から学習者の比率を把握 2.寮生会協議会で実施検討を依頼し、寮生勉強会が復活(後期中間試験から) 3.第9回寮務委員会で再度検討予定	80	4		
4. 進学士課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	18	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているか。	教務主事	1. CPIに基づき教育課程を編成しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	教育課程表 R6第2回教務委員会議事概要	カリキュラムポリシーに従い、一般科目及び専門科目を配置した教育課程を編成している。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5		
		19	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。	教務主事	1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	学校ホームページ:工学科概要 教育課程表 R6第2回教務委員会議事概要	学科改組による新設科目を含め、一般科目および専門科目を適切に配置している。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5		
	授業形態、学習指導法	20	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	教務主事	1. 教育内容に応じて学習指導上の工夫をしているか。 2. 指導上の工夫等について報告により確認をしているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	R6第2回教務委員会議事概要	指導上の工夫についての確認を今後行う。 点検項目は教務委員会で確認している。	50	3		
		21	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	教務主事	1. CPIに沿って、適切なシラバスを作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	Webシラバス R6第2回教務委員会	Webシラバスを作成し、周知している。 シラバスの活用についてはアンケートで確認予定である。 点検項目は教務委員会で確認している。	80	4		
	成績評価・進級及び卒業判定	22	成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。	教務主事	1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 卒業認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	Webシラバス 学生便覧 R6第2回教務委員会	成績評価・単位認定の基準に関する情報はシラバスに記載し周知している。 単位数および卒業要件については学生便覧で周知している。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5		
23		成績評価は適切に行われているか。	教務主事 総務主事 (教育改善委員会)	1. 成績評価を適切に行っているか。 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	Webシラバス 成績評価履歴 R6第2回教務委員会	シラバスおよび成績評価履歴により成績評価が適切に行われていることを確認している。	100	5			
24		進級判定、卒業認定が適切に行われているか。	教務主事	1. 進級判定を適切に行っているか。 2. 卒業認定を適切に行っているか。 3. 進級判定・卒業認定基準を確認しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	Webシラバス 卒業・進級判定資料 R6第2回教務委員会	教務委員会において進級および卒業認定の基準を確認し、卒業・進級判定会議において、学生全員の卒業・進級判定を行った(R5)。	100	5			
25	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	1. 学業成績からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 学会発表や学生表彰からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	卒業・進級判定資料 学会発表や学生表彰一覧 R6第2回教務委員会	学習・教育到達目標を達成するために設定された科目の単位習得により、学習・教育の成果が認められた(R5)。 学会発表や課外活動、コンテスト等で活躍した学生の状況から、学習・教育の成果が認められた(R5)。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5				

	学習・教育の成果	26	卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	1. 卒業時のアンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 卒業生アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 企業アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	学習到達度自己評価の調査結果 第2回教務委員会	卒業時の学習到達度自己評価の調査結果から、学習・教育の成果が認められた(R5)。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5				
		27	卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	1. 卒業後の進路に学習・教育の成果が表れているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	進路状況に関する資料(就職・進学) 第2回教務委員会	卒業後の進路状況から学習・教育の成果が認められた(R5)。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5				
5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	28	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。	専攻科長	1. CPIに基づき教育課程を編成しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	1.専攻科科目連携表 2.第2回専攻科運営委員会議事録		100	5				
		29	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。	専攻科長	1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1,2,3. Webシラバス参照 4. 第2回専攻科運営会議議事録	1,2,3. DP,CPI,学習教育到達目標の関係を明確化し、科目の配置を検討した。 4. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	100	5				
	授業形態、学習指導法	30	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	専攻科長	1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 修了認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. Webシラバス参照 2. 学生の説明会資料 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. Webシラバスを確認した。 2. 年度末に実施している学士取得の説明会で周知している。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	100	5				
		31	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。	専攻科長	1. CPIに沿って、シラバスを適切に作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. Webシラバス参照 2. 授業評価アンケート 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. Webシラバスを確認した。 2. 専攻科授業評価アンケート項目として設定予定である。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	80	4				
	成績評価・修了判定	32	成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。	専攻科長	1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 卒業認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. Webシラバス参照 2. 成績評価資料 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. Webシラバスを確認した。 2. 専攻科ガイダンスで周知している。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	100	5				
		33	成績評価は適切に行われているか。	専攻科長 総務主事 (教育改善委員会)	1. 成績評価を適切に行っているか。 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1,2. Webシラバス参照 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1, 2. Webシラバスを確認した。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	100	5				
		34	修了認定が適切に行われているか。	専攻科長	1. 修了認定を適切に行っているか。 2. 修了認定基準を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 削除 2. 修了判定会議 3. 修了判定会議 4. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 進級判定は行っており、単位認定のみである。 2. 修了判定会議で実施予定である。 3. 修了判定会議で実施予定である。 4. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	20	2				
		35	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 学業成績からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. グローバル化への対応成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 所定の単位を収めることで確認 2. 削除 2. 特別研究IIの英語の要項および発表 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. CPIにより設置された科目群の単位を取得することで確認する。 2. 学会発表や学生表彰は任意の活動であり、指標とはならない。 2. 英語の要項作成および英語での発表を取り入れる 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	20	2				
	学習・教育の成果	36	修了時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 修了時のアンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了生アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 企業アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 専攻科修了時のアンケート調査 2. 専攻科修了生へのアンケート調査 3. 企業へのアンケート調査 4. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 専攻科 修了時に2種類のアンケート調査を実施する予定である。 2,3 アンケートを実施しなければならない。 4. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	10	1				
		37	修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 修了時の学生の取得状況から学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了後の進路状況から学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. 修了時の学位の取得状況 2. 修了時の進路状況 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 学位の取得状況の確認を行う。 2. 修了時の進路状況を確認する。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	20	2				
38		ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 修了時の学生の取得状況から学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了後の進路状況から学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. 修了時の学位の取得状況 2. 修了時の進路状況 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 学位の取得状況の確認を行う。 2. 修了時の進路状況を確認する。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	20	2					
6. アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ	準学士課程の学生の受け入れ	38	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施されているか。	教務主事	1. APIに基づき入学選抜を実施しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	入学者募集要項 入学選抜実施要項(推薦選抜・学力選抜)	募集要項にAPを記載し、出願資格に「科学技術に関する興味があること」を明記している。 推薦選抜では「内申点の傾斜配点」およびAPを確認した面接の点数化を行い実施している。 学力選抜では数学・理科・英語に傾斜配点を行い実施している。	100	5				
		39	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学選抜の改善に役立てているか。	教務主事	1. 入学者がAPIに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学選抜の改善に役立てているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	主専攻選択希望調査結果	新入生の主専攻選択調査においてアンケートを実施し、APIに沿った学生が入学しているかを確認してしる。また、希望する系の選択およびその系において学びたい内容に関するコメントにより、工学に関心がある学生が入学していることを確認している。	100	5				
		40	受験者数増加対策は効果的に行われているか。	教務主事 総務主事(広報企画室) 男女共同参画推進室長 入試広報室	1. 受験者は増加したか。 2. 受験者数増加対策を検討しているか。 3. 受験者数増加対策を実施しているか。 4. 活動の検証をしているか。 5. 点検事項の確認・検討をしているか。	入学選抜委員会議事概要	受験者数は微減となっており、増加対策を検討している。	50	3				
	専攻科課程の学生の受け入れ	41	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施されているか。	専攻科長	1. APIに基づき入学選抜を実施しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 専攻科入学選抜要領 2. 委員会資料	1. 入試の面接でAPIについて質問している。 2. APIに従い、傾斜配点などを導入できないかを検討している	100	5				
		42	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学選抜の改善に役立てているか。	専攻科長	1. 入学者がAPIに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学選抜の改善に役立てているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 専攻科入学時のアンケート調査 2. 入学選抜委員会議事録 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 専攻科理解度アンケート 2. アンケート結果を入学選抜委員会で報告予定 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	80	4				
43		受験者増加対策は効果的に行われ、入学定員と実入学数との関係の適正化が図られているか。	専攻科長	1. 受験者数増加対策を検討しているか。 2. 受験者数増加対策を実施しているか。 3. 活動の検証をしているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 専攻科運営委員会議事録 2. 本科4年生の説明会資料 3. 専攻科運営委員会議事録 4. 第2回専攻科運営委員会議事録	1. 本科4年生への説明会の他、先取り単位制度の導入などを検討中 2. 進路支援室からの要請による本科4年生への説明を実施予定 3. 活動の結果を委員会で報告し、その効果を検証する。 4. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	25	3					
7. 研究活動の状況	研究体制と支援体制	44	研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	研究主事	1. 研究活動に関する基本方針が定められているか。 2. 研究推進委員会が設置されているか。 3. 研究倫理委員会が設置されているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	1.研究推進委員会議事録 2.3.事務分掌による組織図及び委員会議事録 4.研究推進委員会議事録	研究推進委員会にて検討すると同時に、第2ブロック研究推進会議や研究推進担当責任者会議などの内容の展開を検討中。	50	2				
	研究活動の成果	45	研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	研究主事	1. 研究業績一覧を発行し、研究状況の確認を行っているか。 2. 学生による学会発表件数、学生が関与する共同研究の実施状況などを確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	教育研究報告(旧紀要)、シーズ集の発行 学生がかかわる共同研究申請書 研究推進委員会議事録	投稿案件の募集中 学生の関わる共同研究申請は、都度対応	50	2				

	研究活動の改善	46	研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。	研究主事	1. 研究推進委員会にて研究活動推進に関する事項を検討しているか。 2. 点検事項を再検討しているか。	研究推進委員会議事録	研究プロジェクトの申請や、科研費申請、研究力の強化プログラムの対象者を研究推進委員会で検討する際に議論を行っており、現在も進行中で議論している	50	2				
8. 地域貢献活動等の状況	地域貢献活動の計画	47	地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。	総務主事 (広報企画室長) 研究主事 (地域共同テクノセンター長)	1. 地域貢献の目的を定めているか。 2. 活動計画を定めているか。 3. 計画に沿って実施しているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。	・産業への協力 ・第1回広報企画室会議議事概要 ・社会人向け講習会・研究会・交流会の計画書・案内メール ・テクノセンター運営会議議事録	1. 学校広報の目的、活動方針を確認している 2. 講習会、研究会、交流会の計画にもとづき、月1回のテクノセンター運営会議で確認を行い推進	50	2				
	地域貢献活動等の成果	48	地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。	総務主事 (広報企画室長) 研究主事 (地域共同テクノセンター長)	1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。	テクノセンター年報	社会人向けの講習会、交流会など開催後のアンケートによる分析をおこない、次回への改善につなげている テクノセンター運営会議で、進め方を確認しながら計画を進めている	50	2				
	地域貢献活動の改善	49	地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。	総務主事 (広報企画室長) 研究主事 (地域共同テクノセンター長)	1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。	第1回広報企画室会議議事概要 テクノセンター運営会議議事録 技術振興会の理事会及び総会議案書	昨年度の活動を確認し、本年度の活動を計画 開催後の参加者アンケートを分析し、次回への改善につなげている	25	2				
9. 財務及び管理運営と情報公開	財務関係	50	適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	事務部長	1. 効率的・効果的な収支計画(見積)を策定しているか。 2. 学内会議等で予算配分方針を周知しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. 予算配分方針 2. 予算配分	1. 6月21日の執行会議にて予算配分方針案等が承認された。 2. 7月4日の運営会議で予算配分方針・予算配分を報告を行った。 3. グループウェアへ資料の掲載を行っている。 4. 点検事項の検討を行っている。	75	4				
		51	適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているか。	事務部長	1. 予算配分方針に基づき、適切な予算配分をしているか。 2. 定期的に、予算執行状況を確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. 予算配分方針 2. 予算配分 3. 予算執行集計表 4. 予算差引簿	1. 6月21日の執行会議にて予算配分方針・予算配分承認された。 2. 定期的に執行状況を確認し、執行率が低い場合は執行予定等を確認し、早期執行を促している。 3. 点検事項の検討を行っている。	75	4				
		52	適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。	事務部長	1. 定期的に予算執行状況を把握しているか。 2. 決算状況について、HP等で公表しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. H.P・学校要覧(財務状況) ・ 収入・決算額 ・ 外部資金受入状況 ・ 科学研究費交付決定状況	1. 定期的に予算執行状況の把握を行っている。 2. 7月にホームページへ前年度の財務状況を公表を行った。 3. 点検事項の検討を行っている。	75	4				
	管理運営	53	各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	事務部長	1. 時宜に応じた事務組織等の見直しを行っているか。 2. 事務組織等の人員配置などについて定期的に点検・確認しているか。 3. 教育改善委員会で各種委員会の活動状況の点検を行っているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	1. 内部組織規則、各委員会規則 2. 事務組織及び事務分掌規則 3. 各種委員会の活動状況の点検結果(教育改善報告書)	1. 第2四半期頃より次年度の事務組織等の人員配置を検討し、必要に応じて人員配置の見直しを行っている。 2. 事務組織の人員配置の検討材料の一つとして、半期ごとの業績評価時における職員面談を通じて、現在の業務状況なども確認する予定。 3. 年度末に教育改善委員会で各種委員会・センター等が適切に活動しているか点検を行っている。(令6年3月「令和5年度教育改善報告書」)	75	4				
		54	情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備され、規則に沿った運用がなされているか。	総務主事 事務部長	1. 安全管理規則が定められているか。 2. 規則に沿って研修が行われているか。 3. 規則に沿った安全管理対応が行われているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。	1. リスク管理規則 2. 情報セキュリティ管理・推進規則 3. 防災マニュアル 3. 情報セキュリティ利用者規則、教職員規則	1. 各種関連規則は整備済み。(R4の情報セキュリティ監査で確認済み。) 2. 情報セキュリティe-LearningをR6.9～10に実施した。 3. 情報セキュリティインシデント対応訓練の第1回をR6.11に実施し、第2回をR6.12に実施した。 4. 情報セキュリティ推進委員会を開催(4/22、5/27、6/24、7/29、8/26、10/28、11/25)し、情報セキュリティの管理を行っている。 5. R6.4に防災マニュアルを更新した。 6. R6.5に防火訓練を行い、R6.11に防災訓練を実施した。 7. 点検事項の検討を行っている。	90	4				
		55	外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	研究主事	1. 外部資金の公募案内を校内に周知しているか。 2. 科学研究費申請書の添削支援を実施しているか。 3. 特許出願に関する支援を実施しているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	科研費申請の案内 研究プロジェクトの申請制度の開始 三校特許事務所による指導を企画	科研費の申請状況を執行会懇談会で共有、外部資金の状況を共有し問題意識を共有している 長野高専オーブンラボを設置し、活性化を図る取り組みを行っている	80	4				
		56	外部の教育資源を積極的に活用しているか。	教務主事 専攻科長 研究主事	1. 外部の教育資源を積極的に活用しているか。 2. 点検・評価手法を再検討しているか。	実務訓練企業説明会実施要項 学校報告資料(技術振興会総会) R6第2回教務委員会議事概要 R6第7回教務委員会議事概要	企業や機関の協力のもと、インターンシップ事業を進めている。 エンジニアリングデザイン科目の実施に向けて協力依頼を含めた説明を行った。 点検項目は教務委員会で確認している。	80	4				
57	管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。	事務部長	1. 定期的にSD研修会などを実施しているか。 2. その他、職員の資質向上を図る取組を実施しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. SD研修会の実施 2. 管理運営等の研修会への参加リスト	1. 高専機構主催の初任職員研修会(5/13～15)に2名参加 2. 高専機構主催の令和6年度学務担当者向けオンデマンド研修(5/15～8/15)に2名参加 3. 高専機構主催の初任教員研修会(5/27～28)に3名参加 4. 長野高専主催のメンタルヘルス(ラインケア)研修(8/28)に18名参加 5. 長野高専主催の職員海外研修(シンガポールへの学生の海外研修に同行8/26～8/30)に1名参加 6. 長野高専主催の語学研修(事務系職員対象)(8月末～11月末)に1名参加 7. 長野高専主催の部下指導研修(9/20)に19名参加 8. 長野高専主催の職員海外研修(シンガポールへの学生の海外研修に同行8/26～8/30)の研修報告会を開催(10/8) 9. アンケートや報告会から点検の再検討を行っている。	100	5						
58	教育情報(学校教育法施行規則の事項を含む)が公表されているか、また、タイムリーな情報発信が行われているか。	総務主事(広報企画室長) 事務部長	1. 文部科学省令第15号に沿って情報公開が行われているか。 2. 公開状況の点検・整備が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。	長野高専ホームページ 教育情報	1. 平成30年度の機関別認証評価において、公表内容を審査されている。その後、担当教員に点検を依頼するなど、随時内容を変更している。 2. 公開情報の見直しが行われ、データ更新を行っている。 3. 本年度からホームページをリニューアルした。ホームページや地域活動、刊行物などを通じて、社会に向けた情報発信を適時に行っている。 4. 点検の再検討を行っている。	85	4						

達成率
点検事項の実績に基づいて達成率を算定する

自己評価
1 達成率 0～20%
2 達成率 21～40%
3 達成率 41～60%
4 達成率 61～80%
5 達成率 81～100%

令和6年度参加会

令和7年1月29日

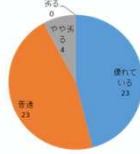
卒業生・企業アンケート

- 実施：令和6年8月～9月
- 対象：令和2年年度、令和3年年度
 - 本科卒業生 200名（各科20名）
 - 専攻科修了生 49名
 - 就職・進学先 255機関
- 回答数：回答率 12.5%
 - 修了生 8 / 49
 - 卒業生 42 / 200
 - 機関 14 / 255

修了生・卒業生：新しい環境での生活を始めた頃の事

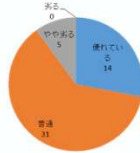
項目 1

周囲の同僚あるいは学生と比較して専門的な知識や能力の素養は



項目 2

周囲の同僚あるいは学生と比較して、数学・自然科学・情報技術など技術者としての素養に関する知識は



項目 3

周囲の同僚あるいは学生と比較して、語学やコミュニケーションに関する能力は



項目 4

周囲の同僚あるいは学生と比較して、問題や課題に対して様々な知識を用いて解決する能力や姿勢は



項目 5

周囲の同僚あるいは学生と比較して、社会的な倫理観については



項目 6

周囲の同僚あるいは学生と比較して、物事を表現したりプレゼンテーションを行う能力は



修了生・卒業生：現在の状況

項目 1

本校を修了あるいは卒業してから特に重点的に学んだと思う知識



項目 2

修了あるいは卒業してから自分の知識や技術がどのように変化したか



項目 3

現在の自分にとって長野高専で学んだ基礎的な工学の専門知識は



項目 4

現在の自分にとって長野高専で学んだ数学・自然科学・情報技術に関する知識は



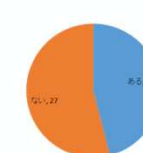
項目 5

現在の自分にとって長野高専で学んだ語学やコミュニケーション能力は



項目 6

現在の自分にとって長野高専で学んだ専門分野に関する知識以外で、現在必要な他の工学専門分野の知識で必要なのは



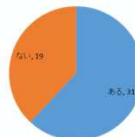
修了生・卒業生：現在の状況

項目6で「ある」と答えた方で具体的な例があればここに記入してください

- React ASP.NET IIS Python
- 環境都市工学を専攻したが、会社が電気通信事業の土木分野に分社した会社のため電気通信分野の知識が必要と感じている
- 事務処理ソフトの扱い
- 医療の知識
- 第二種電気主任技術者の資格取得の際に授業でやった内容だけでは分野も範囲も不足している
- 光学
- 通る申請書の書き方
- 情報セキュリティ
- 工程設計手法
- プログラム言語
- 精密計測・光学
- コンピューターサイエンス
- 自然言語処理, GitHub
- プログラミング言語
- プログラミング
- 電気電子卒ですが、電気に加えて機械、土木も関連している職業です。

項目7

他の教育機関（大学・大学院等）の卒業生と高専卒業生との違いがありますか



修了生・卒業生

項目7で「ある」と答えた方で具体的な例があればここに記入してください

- 土木学部卒以外と比較して土木にまつわる基礎知識の違いで差が出ていると感じる。土木資格問題の基礎知識がある。
- 初任給
- 教養
- 地頭の良さ
- まじめさ
- 専門性
- 専門知識の勉強やり方や問題があった時の対処の仕方などは周りと比べて優れていると思う。周りに比べると先に行動できたりしている。
- 考えてから行動に移すまでの速さ
- 卒業研究や実験の考察力は高専の方が優れていると感じた。
- 自身の研究の説明能力
- 実験、実習を多く経験しているため、手を動かせる人が多いと感じる。
- 専門的な技術力
- 高専生っぽさ
- 高専生は専門のみに特化しすぎている印象がある
- 高専卒業生のほうが技術に対する興味関心が高い
- 在学中に実験等を多くこなすため、高専卒業生は即戦力になると思う
- 機械工作における知識の差
- 同期の方が自分より歳上のことが多い
- プレゼンテーション能力が他機関のほうが高い印象です。
- 高専生の方が基本情報技術者試験レベルの基礎的な知識やドキュメントにまとめる能力があるように思います。

企業:入社時点の状況

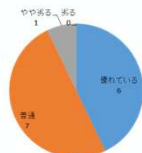
項目 1

工学や技術に関する専門的な知識の素養は



項目 2

数学・自然科学・情報技術などの基礎的な知識の素養は



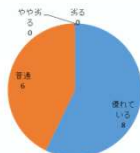
項目 3

語学やコミュニケーションに関する能力の素養は



項目 4

周囲の同僚あるいは学生と比較して、問題や課題に対して様々な知識を用いて解決する能力や姿勢は



項目 5

周囲の同僚あるいは学生と比較して、社会的な倫理観については



項目 6

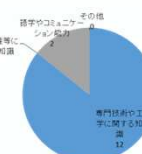
周囲の同僚あるいは学生と比較して、物事を表現したりプレゼンテーションを



企業:現在の状況

項目 1

入社あるいは入学時（研究室等への配属を含む）から特に能力が向上したと思われる分野を選択肢の中から一つだけ選択すると



項目 2

入社あるいは入学時（研究室等への配属を含む）から現在の専門的な知識や技術は



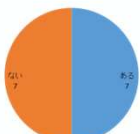
項目 3

入社あるいは入学時（研究室等への配属を含む）から現在の語学やコミュニケーション能力は



項目 4

就業上あるいは学習・研究活動において本校で学んだ専門分野に関する知識以外で、現在必要な他の工学専門分野の知識で必要なものは



項目4で「ある」と答えた方で具体的な例があればここに記入してください

- 物事を数学で考える能力
- IT関連の知識
- プログラミング言語
- 数理統計、品質工学、プロジェクトマネジメント
- 電気・機構学

企業:現在の状況

(1) 高専教育に不足していることがありましたらお願いいたします。

- 英語教育が大変不足している。英文をきちんと音読できない学生がおり、音読できるまで指導した。
- 業務に取り組むにあたり、専門的な知識が十分に身についていると感じました。在学中に得た知識か、個人で学習した知識かの判断まではできていませんが、高専での教育が影響していることは間違いないと思います。

(2) その他、感想または意見・要望がありましたらお願いいたします。

- 当部署に配属されている卒業生全員が、それぞれに学んだ知識や技能を活かし意欲的に仕事に取り組んでいる。会社にとっての重要な戦力となっている。今後も継続して優秀な人材の育成、輩出を望みます。
- 物事を数学的・物理的に考える訓練を行なってほしい。
- 貴高卒業生は、技術的専門知識や弊社に必要な資格取得についても優れています。コミュニケーション能力も必要となりますが、弊社への就職者は、この能力も高いと感じます。今後ともよろしくお願いいたします。
- まだ、研修中ではありますが、高専で学んだ知識を活かし更に高め業務に励んでおります。今後とも良き関係であればと思います。
- 純粋な業務だけではなく、社会人としての姿勢も感心する部分があり、優秀な人材を確保できたことを嬉しく思っております。

令和6年度 参与会

令和7年1月29日

研究活動方針

「本校の研究活動に関する基本方針」 校長裁定より抜粋

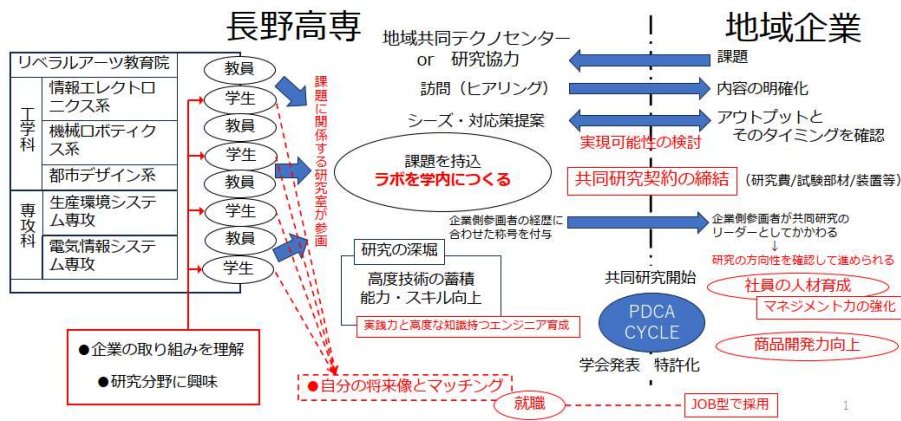
本校における研究活動は、教員によって本校創立以来継続され、教育の質を保証する上での重要な手段となっている。あわせて、重要な知的情報の発生源でもあり、また、研究活動を通して地域に貢献することへの期待が大きい。そこで、上記のような社会的背景あるいは本校研究活動の活性化の状態を受けて、研究の主たる目的を以下のように明確化するものとする。

- (1) 地域と連携し、かつ地域と密着した研究活動を行う。
- (2) 産学官金の共同研究を推進する。
- (3) 研究活動を本校の教育の向上に反映させる
- (4) 国際的、および学際的な研究を推進する。
- (5) 社会の安寧と人類の幸福、平和に資する研究を推進する

研究活動と地域連携を加速する目的で「長野高専オープンラボ」（企業から持ち込まれた課題を解決するための研究室研究連携）を設置しました。

(2024年10月1日から開始、開所式10月29日)

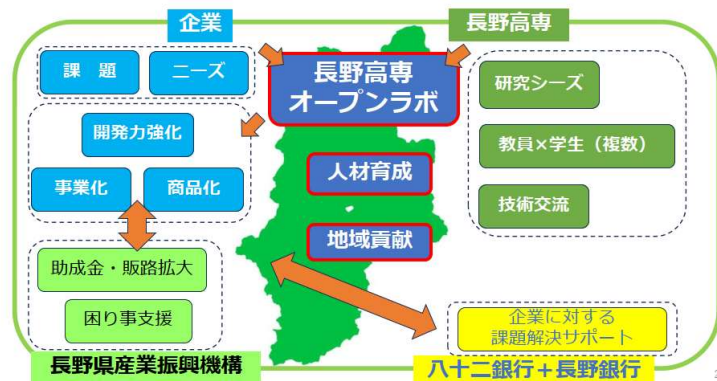
長野高専オープンラボ



企業から持ち込まれた課題について関連分野を研究する教員（2名以上）や学生が共同研究に取り組み、研究活動の活性化と学生の実践力を高める。
・共同研究費700万円/企業拠出、期間2年間（希望により延長可）

長野高専オープンラボ

[産]企業×[学]長野高専×[金]八十二銀行+長野銀行×[公]長野県産業振興機構



長野高専オープンラボは、進捗のステージに応じた様々な支援体制が受けられる枠組みの中で活動しています。

長野高専オープンラボ

アピックヤマダ 未来技術研究室



スタートチーム
富岡研究室、姜研究室、田中研究室

山洋電気 パワエレ未来研究室



スタートチーム
中島研究室、田中研究室

相談窓口：地域共同テクノセンター特命教授
(オープンラボ推進担当) 浅沼 和志
e-mail : asacoordi@nagano-nct.ac.jp
TEL : 026-295-7106

外部資金科研費獲得目標と状況

■目標設定

「5/15に開催された第1回研究推進・産学連携本部会議」にて設定

- 1) 科研費獲得目標** 全種目平均17%以上。全種目での採択数330件以上。(各高専6.5件以上)
基盤B以上の新たな採択件数15件以上。(各高専1件以上)
- 2) 外部資金獲得目標** 高専機構全体で2.5億円増加(各高専500万円増加)

■状況(科研費採択数14件(基盤B:3件含む) 200%達成 外部資金:69,478千円89.9%達成)
科研費及び外部資金合計の獲得状況としては、合算では517万円の増加

■外部資金受入状況												
名称	令和元年度 (2019年度)		令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
共同研究	18	14,040	23	18,827	15	13,325	16	19,585	32	25,979	15	25,656
受託研究	1	614	5	2,775	5	3,127	6	4,091	5	3,440	6	4,260
受託事業・補助金他	2	650	5	2,900	13	16,797	5	3,104	5	3,332	4	2,501
寄附金(長野高専基金を含む)	58	49,721	133	43,511	134	24,521	131	43,322	252	39,514	113	37,061
合計	79	65,025	166	68,013	167	57,770	158	70,102	294	72,265	138	69,478
■科学研究費補助金交付決定状況												
研究種目	令和元年度 (2019年度)		令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
挑戦的研究(萌芽)	1	624	2	1040	0	0	0	0	0	0	1	780
基盤研究(A)	0	0	0	0	1	1,300	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	4	1,278	3	988	2	585	4	1,365	2	195	3	13,260
基盤研究(C)	5	12,968	7	17,485	7	17,268	10	20,696	8	15,444	10	19,851
若手研究	2	8,450	1	2,730	1	4,810	2	8,970	3	10,292	0	0
奨励研究	2	990	2	830	0	0	0	0	0	0	0	0
研究活動スタート支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学術図書	0	0	0	0	0	0	1	1,800	0	0	0	0
厚生労働科学研究費補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	14	24,310	15	23,073	11	23,963	17	32,831	13	25,931	14	33,891

※2024年11月末まで

令和6年度参与会

令和7年1月29日

高速信号伝送評価センター

令和3年度・国立高専機構高度設備共同利用拠点整備事業として
高速信号伝送評価センターを2023年度に長野高専内へ設置した。

装置概要

- ~100GHz帯の信号伝送・電磁材料の測定装置により、**Beyond 5G/6Gのハードウェア開発**ができます。
- X線CT-Scanやレーザー顕微鏡により、**電子機器・電磁材料の構造データ**を取得できます。
- 情報通信分野に留まらず、機械系・土木系分野からの要望に応え、有限要素法による**電磁界・応力・熱流体解析**ができます。



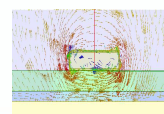
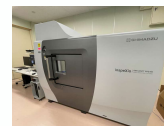
信号伝送
電磁材料評価



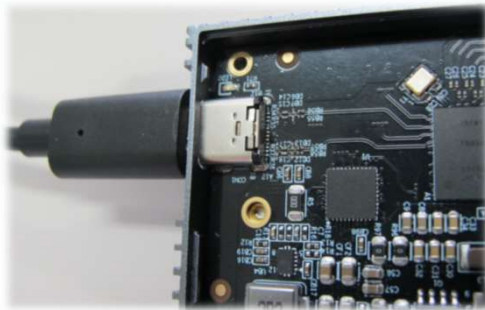
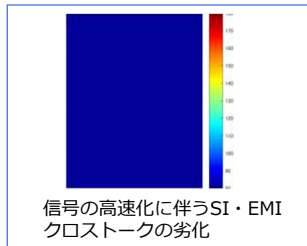
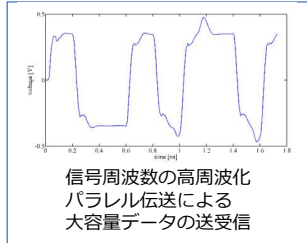
3次元
構造解析



電磁界解析



Society 5.0 時代の高速信号伝送の課題

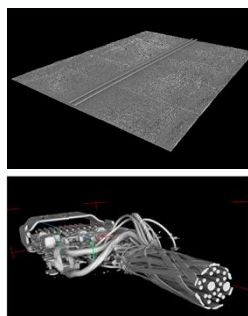


**Beyond5G/6G時代に対応した
信号伝送や電磁材料測定・解析装置が必要**

GHz帯の測定器は高額なので、高専教員の研究・教育で活動できるように、長野高専が拠点校になり整備された

高速信号伝送評価センターの活用事例

- AIなどのビッグデータを処理するための高速通信の評価

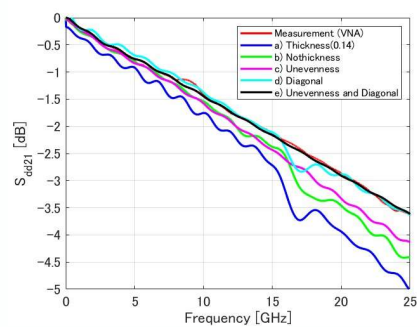


基板やコネクタ・ケーブルをCTでモデル化

電磁界解析



実測



高速信号伝送評価センターの利用状況

表 2024年上期利用時間 [h]

設備名	外部個別利用時間	共同研究利用時間	総利用時間
VNA	22	40	377
電波暗室	0	0	0
CT-Scan	14	69.5	221.7
レーザー顕微鏡	0	0	55

外部個別利用数 : 6件
共同研究数 : 4件

主な利用内容：

- 電波吸収体の吸収特性評価
- 新しい低損失基板の電気特性評価
- CT-Scanによる機械的内部構造評価
- CT-Scanと電磁界解析を連携した特性評価解析
- 生ハムやサツマイモの特性評価試験
(高専機構・食品組成測定技術プロジェクト)



空洞症のサツマイモ



正常なサツマイモ

令和6年度参加会

令和7年1月29日

ソーシャルイノベーション・ サポートセンター

「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」

交付申請書より抜粋

本事業では、新たにソーシャルイノベーション・サポートセンターを設置し、学生の自主的活動や「エンジニアリングデザイン」の実施を支援する「ものづくり」環境の充実だけでなく、FD研修などを通じた教員のスキルアップを図り、長野高専全体としてスタートアップ人材育成体制の基盤整備と体制強化を行うものである。

- (1) ソーシャルイノベーション・サポートラボを設置
- (2) 学生の起業マインド醸成
- (3) 起業経験者や卒業生、技術振興会による支援体制の強化
- (4) 「エンジニアリングデザイン入門・実践」の指導体制の整備
- (5) 起業相談窓口を新たに設置

**学生の支援のためソーシャルイノベーション・サポートセンターと
ソーシャルイノベーション・サポートラボを設置しました。**

ソーシャルイノベーション・サポートラボ概要



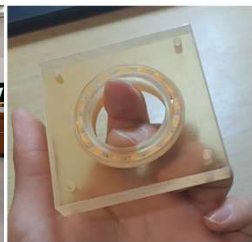
ソーシャルイノベーション・サポートラボ使用状況

利用時間(R6年11月26日現在) [h]

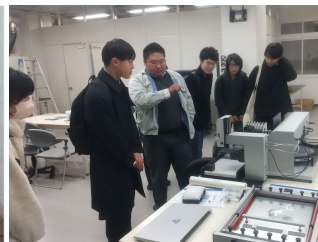
設備名	学生試作利用時間	教員研究利用時間	総利用時間
レーザー加工機	24.5	12.5	37
インクジェットカラープリンタ	2	0	2
3Dプリンタ	6.5	47.0	53.5
プリント基板設計	0	6	6



ラボ利用の様子



3Dプリンタを使用した試作
(学生作成の樹脂玉軸受け)



外部講師による
装置活用講座の様子

ソーシャルイノベーション・サポートセンター活動状況

●学生の起業マインド醸成

10/1 起業家によるエンジニアリングデザイン入門講座

11/4 卒業生によるキャリア講演会

11/18 技術振興会企業様による講演会

12/9 起業家によるエンジニアリングデザイン実践講座

●学生のビジネスコンテスト出場状況

-DCON2025

1次審査通過 4チーム

ぶくなる制作委員会, HearOes, 未来稲作研究所, ReGlass Tech

-GCON2024

エントリー 2チーム さかちゃんズ, 長生きし隊

-信州ベンチャーコンテスト

本選出場 1チーム TanbaProject

●エンジニアリングデザイン入門・実践の指導体制の整備

9/30 教職員向けFD研修

学生のモチベーションを高めるメンタリングとは

2/中 教職員向け研修(予定)

メンタリング相談会



技術振興会企業による講演会の様子



起業家による講演会の様子

ソーシャルイノベーション・サポートセンター活動状況

●起業相談窓口の整備

5/20 起業を目指す学生のオンライン相談①

6/20 学生向け技術講座

8/05 ビジコン同好会オンライン相談①

9/24 ビジコン同好会オンライン相談②

11/13 起業を目指す学生のオンライン相談②

11/20 DCONブラッシュアップセミナー①

11/21 起業を目指す学生のオンライン相談③

11/25 DCONブラッシュアップセミナー②

11/25 DCONブラッシュアップセミナー③

11/28 信州ベンチャーコンテストブラッシュアップセミナー

12/5 DCONブラッシュアップセミナー④

➢ DCONブラッシュアップセミナーは3チームをフォローし全12回予定

➢ 相談窓口は学生からの希望があれば随時開催予定



学生向け技術講座の様子



信州ベンチャーコンテスト
ブラッシュアップセミナーの様子

令和6年度参与会

令和7年1月29日

いじめ防止対策への取り組みについて

本校におけるいじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するため、長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画」を定めている。この計画は、

- 「いじめ防止対策推進法」
- 「いじめの防止等のための基本的な方針」
- 「独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等対策ポリシー」
- 「独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等ガイドライン」

を踏まえて作成している。

いじめの防止等に関する措置を、実効的に行うため、複数の教職員を、心理・福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成される「学校いじめ対策委員会」を設置し、定期的に会議を開催している。

長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画

平成26年9月18日制定
令和2年7月6日改定
令和6年5月2日改定

長野工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号、以下「法」という。）、いじめの防止等のための基本的な方針（平成25年10月11日文科科学大臣決定、最終改定平成29年3月14日、以下「国の基本方針」という。）、並びに独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等対策ポリシー（平成26年3月27日理事長議定、最終改定令和2年4月30日、以下「機構ポリシー」という。）、独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等ガイドライン（令和2年4月30日理事長議定、以下「機構ガイドライン」という。）を踏まえ、本校におけるいじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するため、「長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画」（以下「学校いじめ防止等基本計画」という。）を定める。

1. いじめの防止等のための基本的な方針

(1) いじめの定義

「いじめ」とは、学生に対して、当該学生が在籍する学校に在籍している等当該学生と一定の人的関係にある他の学生が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった学生が心身の苦痛を感じているものをいう。（法第2条）

また、個々の行為が「いじめ」に該当するか否かについては、表面の・形式的に判断することなく、いじめられた学生の立場に立ち、学生の感じる被害性に着目して判断する。

(2) いじめの禁止

学生はいじめを行ってはならない。（法第4条）「いじめは絶対に許されない」という姿勢のもと、本計画にのっとり厳正に対処する。

(3) 基本理念

1) いじめの防止等のための対策は、いじめが学校の全ての学生に関係する問題であることに鑑み、学生が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われないようにすることを旨として行う。特に、寮生活におけるいじめは、教職員の目が届きにくいことを理解し、寮生活においてもいじめが行われないようにすることも旨とする。

いじめ防止等基本計画の構成

1. いじめの防止等のための基本的な方針

いじめの定義、いじめの禁止、基本理念、学校及び教職員の責務、学校いじめ対策委員会

2. いじめの未然防止

いじめ防止プログラムの策定、教職員の指導力向上、人権意識、道徳的実践力の向上、家庭や関係機関との連携及び学生が自主的に行う活動への支援

3. いじめの早期発見

日常生活における教職員による観察や情報交換、個人面談等の実施、相談体制の整備や相談機関の周知、早期発見・対処マニュアルの策定

4. いじめに対する対応

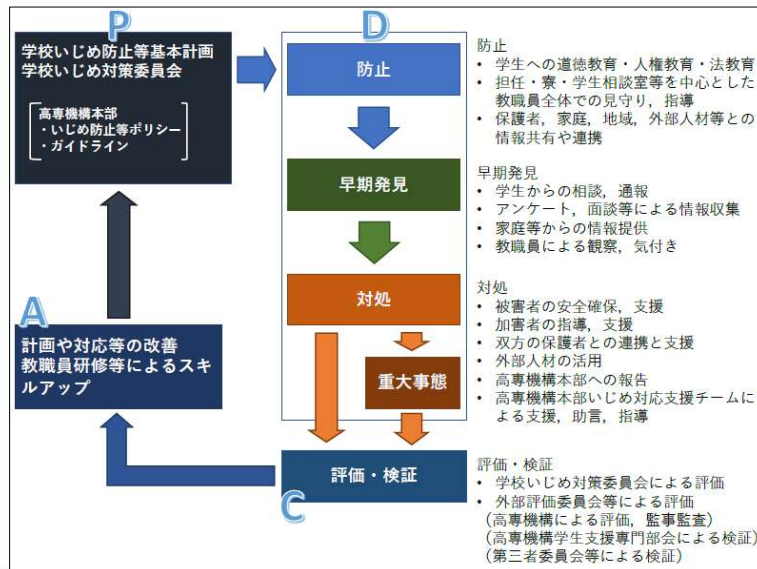
いじめの発見や相談を受けたときの対応、事実調査、組織的対応、いじめを受けた学生やその保護者への支援、いじめた学生やその保護者への助言、いじめを行った学生への懲戒、継続的な指導

5. インターネット等のいじめへの対応 未然防止、早期発見、早期対応、

6. 重大事態への対応 7. 実効的なPDCAサイクルの確保

8. 学校いじめ基本計画の周知

いじめ防止等基本計画PDCAサイクル



いじめ防止プログラム（前期）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
			春のいじめ防止月間				
未然防止	研修			4月18日（木）1・2年生で実施 6月5日（水）3～5年生で実施			
	学生向け講習会		○（1） ○（4）	学生会新聞「秀嶺」でいじめ防止月間を周知 6月5日（水）3～5年生で「SNSと向き合う」ワークを実施			
	保護者等への周知	保護者向けパンフ配付					実施済
早期発見	アンケート		実施済	第1回実施		第2回実施	
	情報交換		学校いじめ対策委員会開催		学校いじめ対策委員会開催		学校いじめ対策委員会開催
	個人面談	随時	随時	随時	随時	随時	随時
評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証

いじめ防止プログラム（後期）

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
			秋のいじめ防止月間				
未然防止	研修		○（3）	11月13日（水）学生相談講習会 スクールソーシャルワーカーによる講演を聴講			
	学生向け講習会		○（2） ○（4）	11月11日（月）学生主事講話 いじめ防止に関する講話を実施			
	保護者等への周知	保護者懇談会にて周知		学生会にいじめ防止啓発活動の実施を依頼したが、実施できず			
早期発見	アンケート		資料を配布	第3回実施		第4回実施	
	情報交換		学校いじめ対策委員会開催		学校いじめ対策委員会開催		学校いじめ対策委員会開催
	個人面談	随時	随時	随時	随時	随時	随時
評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	年間評価・検証

いじめの未然防止

- いじめ防止プログラムの策定
 - ・ ・ ・ 月毎に設定して実施
 - 5月と11月をいじめ防止月間に設定
- 教職員の指導力向上 ・ ・ ・ 11月に研修会を実施
- 人権意識、道徳的実践力の向上
 - ・ ・ ・ 学校行事や課外活動等を通じて向上させている
- 家庭や関係機関との連携及び学生が自主的に行う活動への支援
 - ・ ・ ・ 保護者向けにパンフレットを配布するなどして家庭と連携している
 - 学生が主体的にいじめ問題を考えるワークを実施
 - 学生会等による啓発活動は、ほとんど実施できていないこともあり、支援が不十分

いじめの未然防止・早期発見



パンフレットの配布

長野高専
学生相談室から保護者の方へ
 ～充実した学生生活へ一歩を踏み出す～

高専という環境
 高専は大学等と同等の高等教育機関であり、5年間で高等学校と同等の学習内容に加え、専門的で高度な学修を求められるという特色のある環境です。よって、生活では早く自立する必要があります。
 学園祭があります。卒業までとは異なり、毎日教師が一人一人を支援できるとは限りません。高専は半分大学のようなものであり、学生は、**主体的に、自分で必要な情報を収集し、選択・行動していく**ことが求められます。又、専ら生活をする学生も多く、人間関係の成りや社会とのつながりなども増え、より早く自立することが必要です。
 初年度入学後の1年間は、そのほか学習・生活の変化に、とまどいを感じる学生が多くなります。
 保護者の方は、特に最初の1年間、日々の状況や生活の足守りに関して、ご協力をお願いします。

本校では、学生・保護者向けに複数の相談受付の体制をとり、学生と共に考え、サポートし、成長を見守る環境を整えています。

学習について 勉強方法、授業予備・復習、卒業論文の書き方など	学生生活 専ら生活、友人・仲間・教員、人間関係の悩みなど	健康相談 摂食、心身相談の悩み、喫煙、飲酒、薬物使用など	心理相談 自尊・心身・他・学業に、関する悩みや不安など
進路・進学 進路選択・卒業後の進路	対処の仕方 いじめやトラブルの対処法	相談機関の紹介 相談窓口や専門機関、関係機関の紹介	

新入生の保護者向け

ワーク4
もし、あなたが次の画面に直面したら、どう感じますか。また、どう対応しますか。考えを書き出してみよう。
 (1) 人物を特定できる画面上で、その人の人物を特定する内容を書き込んでいる匿名のアンケートを見た。

(2) あるグループチャットの他に、もう一つのグループチャットに入るとどう感じるか。そこで特定の人の悪口が書かれているのを見た。

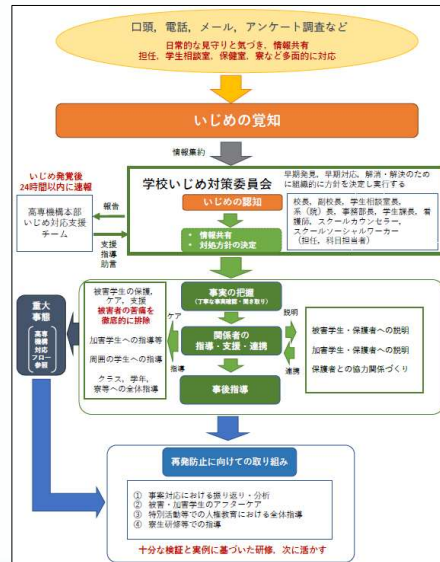
ワーク5
次のワークをおして、どのような行為が人権侵害につながるのか、嫌な思いをしたときどんな変化に相談したらよいか、考えてみよう。
 (1) 違法、または権利の侵害につながるケースについて、「ケース内容」と「侵害の内容」を繋いでつなぎながら確認しましょう。

「ケース内容」	「侵害の内容」
「〇〇はヤブ発言」と投稿した。	・ 誹謗中傷
顔の画像を無断で公開した。	・ プライバシーの侵害
個人情報を無断公開した。	・ 名誉毀損
お問い合わせ欄を公開した。	・ 肖像権の侵害

いじめについて考えるワーク
(神奈川県作成「SNSと向き合う」)

いじめ等早期発見・事案対処マニュアル

- いじめを覚知した場合には、学校いじめ対策委員会に情報を集約して、対処方針を決定する。
- いじめを受けた学生、いじめを行った学生等から聞き取りを行う。
- 専門的な知識を有する職員を含め、複数の教職員によって、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者の協力を得つつ、いじめを受けた学生又はその保護者に対する支援を行う。また、いじめを行った学生に対する指導等又はその保護者に対する助言等を継続的に行う。
- いじめ発覚後、24時間以内に高専機構本部に報告を行い、助言を受ける。



いじめの早期発見・いじめに対する対応

- アンケートによる早期発見
友人間のトラブルなど、比較的早期に発見できている
 - 早期の情報共有と対応
学生相談室ミーティングや、グループウェア（サイボウズ）を校内メールを使い情報共有を早期に実施
大きな問題になる前に、早期に対処できている。
- 【解決できた事例】
- ・教員による観察を行い、本人から事情を聴取。実験グループの編成を変えた。
 - ・教員による観察を行い、本人から事情を聴取。授業内で教員が全体的に注意を払うようにした。
 - ・本人から事情を聴取し、周囲の学生へ対応した。

今後の課題

学生自らが、いじめ問題に主体的に行動しようとする（学生主体による防止プログラムの実施を含む）取組が十分行えていない。学生会における啓発活動、ホームルームの時間を使いいじめについて理解を深めるプログラムを検討する必要がある。